

平成30年度 財政状況資料集

総括表（市町村）

都道府県名	福岡県		市町村類型	I - 1		指定団体等の指定状況		区分		平成30年度(千円)	平成29年度(千円)	区分		平成30年度(千円・%)	平成29年度(千円・%)																																																																																																																																															
						財政健全化等	×	歳入総額	5,122,138	4,632,569	実質収支比率	7.3	7.2																																																																																																																																																	
市町村名	東峰村		地方交付税種地	2-2		財源超過	×	歳出総額	4,804,628	4,437,043	経常収支比率	86.3	84.7																																																																																																																																																	
						首都	×	歳入歳出差引	317,510	195,526	(※1)	(89.5)	(87.8)																																																																																																																																																	
						近畿	×	翌年度に繰越すべき財源	216,421	96,744	標準財政規模	1,382,643	1,367,833																																																																																																																																																	
								実質収支	101,089	98,782	財政力指数	0.13	0.12																																																																																																																																																	
人口	27年国調(人)	2,174	産業構造(※5)		中部	×	単年度収支	2,307	-25,168	公債費負担比率	8.7	6.6																																																																																																																																																		
	22年国調(人)	2,432			過疎	○	積立金	2,365	2,674	健全化判断比率																																																																																																																																																				
	増減率(%)	-10.6			山振	○	繰上償還金	0	0	実質赤字比率	-	-																																																																																																																																																		
住民基本台帳人口(※7)	31.01.01(人)	2,128	区分	27年国調	22年国調	低開発	×	積立金取崩し額	150,000	300,000	連結実質赤字比率	-	-																																																																																																																																																	
	うち日本人(人)	2,120		第1次	214	197	指数表選定	×	実質単年度収支	-145,328	-322,494	実質公債費比率	5.5	6.1																																																																																																																																																
	30.01.01(人)	2,175	第2次	19.1	17.0			基準財政収入額	165,686	166,472	資金不足比率(※4)																																																																																																																																																			
	うち日本人(人)	2,171		329	341			基準財政需要額	1,291,589	1,277,018																																																																																																																																																				
	増減率(%)	-2.2	第3次	29.3	29.5			標準税収入額等	205,749	207,624																																																																																																																																																				
	うち日本人(%)	-2.3		579	618			経常経費充当一般財源等	1,202,881	1,159,536																																																																																																																																																				
面積(km ²)	51.97		51.6	53.5			歳入一般財源等	2,447,102	3,008,735																																																																																																																																																					
人口密度(人/km ²)	42																																																																																																																																																													
世帯数(世帯)	742																																																																																																																																																													
職員の状況																																																																																																																																																														
特別職等	区分	定数	1人あたり平均給料月額(百円)	一般職員等(※6)	区分	職員数(人)	給料月額(百円)	1人あたり平均給料月額(百円)	地方債現在高	2,912,078	2,562,326																																																																																																																																																			
	市区町村長	1	5,504		一般職員	58	180,264	3,108	うち公的資金	2,724,347	2,346,199																																																																																																																																																			
	副市区町村長	1	5,550		うち消防職員	-	-	-	債務負担行為額(支出予定額)	-	-																																																																																																																																																			
	教育長	1	5,000		うち技能労務職員	2	*	*	収益事業収入	-	-																																																																																																																																																			
	議会議長	1	2,700		教育公務員	-	-	-	土地開発基金現在高	-	-																																																																																																																																																			
	議会副議長	1	2,250		臨時職員	-	-	-	積立金現在高	1,188,861	1,336,496																																																																																																																																																			
	議会議員	8	2,100		合計	58	180,264	3,108	減債基金	127,318	127,093																																																																																																																																																			
						ラスパレス指数	94.2			その他特定目的基金	2,174,620	2,122,979																																																																																																																																																		
<table border="0" style="width: 100%;"> <tr> <td style="width: 12.5%;">一般会計等の一覧 項番</td> <td style="width: 12.5%;">会計名</td> <td style="width: 12.5%;">事業会計の一覧 項番</td> <td style="width: 12.5%;">会計名</td> <td style="width: 12.5%;">公営企業(法適)の一覧 項番</td> <td style="width: 12.5%;">会計名</td> <td style="width: 12.5%;">公営企業(法非適)の一覧 項番</td> <td style="width: 12.5%;">会計名</td> <td style="width: 12.5%;">関係する一部事務組合等一覧 項番</td> <td style="width: 12.5%;">組合等名</td> <td style="width: 12.5%;">地方公社・第三セクター等一覧 項番</td> <td style="width: 12.5%;">団体名</td> <td style="width: 12.5%; text-align: right;">(※3)</td> </tr> <tr> <td>(1) 一般会計</td> <td></td> <td>(2) 国民健康保険事業</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>(4) 簡易水道事業</td> <td></td> <td>(5) 福岡県市町村消防団員等公務災害補償組合(一般会計)</td> <td></td> <td>(15) 小石原陶の里</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td>(3) 後期高齢者医療</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>(6) 福岡県市町村職員退職手当組合(一般会計)</td> <td></td> <td>(16) 宝珠山ふるさと村</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>(7) 福岡県市町村職員退職手当組合(基金特別会計)</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>(8) 福岡県自治会館管理組合(一般会計)</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>(9) 甘木・朝倉広域市町村圏事務組合(一般会計)</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>(10) 甘木・朝倉広域市町村圏事務組合(消防特別会計)</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>(11) 甘木・朝倉・三井環境施設組合(一般会計)</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>(12) 福岡県自治振興組合(一般会計)</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>(13) 福岡県自治振興組合(公文書館事業特別会計)</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>(14) 福岡県介護保険広域連合(一般会計)</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </table>																一般会計等の一覧 項番	会計名	事業会計の一覧 項番	会計名	公営企業(法適)の一覧 項番	会計名	公営企業(法非適)の一覧 項番	会計名	関係する一部事務組合等一覧 項番	組合等名	地方公社・第三セクター等一覧 項番	団体名	(※3)	(1) 一般会計		(2) 国民健康保険事業				(4) 簡易水道事業		(5) 福岡県市町村消防団員等公務災害補償組合(一般会計)		(15) 小石原陶の里					(3) 後期高齢者医療						(6) 福岡県市町村職員退職手当組合(一般会計)		(16) 宝珠山ふるさと村											(7) 福岡県市町村職員退職手当組合(基金特別会計)													(8) 福岡県自治会館管理組合(一般会計)													(9) 甘木・朝倉広域市町村圏事務組合(一般会計)													(10) 甘木・朝倉広域市町村圏事務組合(消防特別会計)													(11) 甘木・朝倉・三井環境施設組合(一般会計)													(12) 福岡県自治振興組合(一般会計)													(13) 福岡県自治振興組合(公文書館事業特別会計)													(14) 福岡県介護保険広域連合(一般会計)				
一般会計等の一覧 項番	会計名	事業会計の一覧 項番	会計名	公営企業(法適)の一覧 項番	会計名	公営企業(法非適)の一覧 項番	会計名	関係する一部事務組合等一覧 項番	組合等名	地方公社・第三セクター等一覧 項番	団体名	(※3)																																																																																																																																																		
(1) 一般会計		(2) 国民健康保険事業				(4) 簡易水道事業		(5) 福岡県市町村消防団員等公務災害補償組合(一般会計)		(15) 小石原陶の里																																																																																																																																																				
		(3) 後期高齢者医療						(6) 福岡県市町村職員退職手当組合(一般会計)		(16) 宝珠山ふるさと村																																																																																																																																																				
								(7) 福岡県市町村職員退職手当組合(基金特別会計)																																																																																																																																																						
								(8) 福岡県自治会館管理組合(一般会計)																																																																																																																																																						
								(9) 甘木・朝倉広域市町村圏事務組合(一般会計)																																																																																																																																																						
								(10) 甘木・朝倉広域市町村圏事務組合(消防特別会計)																																																																																																																																																						
								(11) 甘木・朝倉・三井環境施設組合(一般会計)																																																																																																																																																						
								(12) 福岡県自治振興組合(一般会計)																																																																																																																																																						
								(13) 福岡県自治振興組合(公文書館事業特別会計)																																																																																																																																																						
								(14) 福岡県介護保険広域連合(一般会計)																																																																																																																																																						

(注釈) ※1: 経常収支比率の()内の数値は、「減収補填債(特例分)」及び「臨時財政対策債」を除いて算出したものである。
 ※2: 各会計の一覧は主な会計(10会計まで)を記載している。
 ※3: 地方公共団体が損失補填等を行っている出資法人で、健全化法の算出対象となっている団体については、「地方公社・第三セクター等」の団体名に○印を付与している。
 ※4: 資金不足比率欄には、資金が不足している会計のみ記載している。
 ※5: 産業構造の比率は、分母を就業人口総数とし、分類不能の産業を除いて算出。
 ※6: 個人情報保護の観点から、対象となる職員数が1人又は2人の場合は、「給料月額(百円)」と「1人あたり給料月額(百円)」を「アスタリスク(*)」としている。(その他、数値のない欄については、すべてハイフン(-)としている)。
 ※7: 人口については、調査対象年度の1月1日現在の住民基本台帳に記載されている人口に基づいている。

(1) 普通会計の状況 (市町村)

歳入の状況 (単位 千円・%)					地方税の状況 (単位 千円・%)				
区分	決算額	構成比	経常一般財源等	構成比	区分	収入済額	構成比	超過課税分	
地方税	153,257	3.0	153,257	11.4	普通税	153,257	100.0	484	
地方譲与税	13,680	0.3	13,680	1.0	法定普通税	153,257	100.0	484	
利子割交付金	205	0.0	205	0.0	市町村民税	61,947	40.4	484	
配当割交付金	457	0.0	457	0.0	個人均等割	3,059	2.0	-	
株式等譲渡所得割交付金	419	0.0	419	0.0	所得割	48,926	31.9	-	
分離課税所得割交付金	-	-	-	-	法人均等割	4,268	2.8	-	
道府県民税所得割臨時交付金	-	-	-	-	法人税割	5,694	3.7	484	
地方消費税交付金	38,171	0.7	38,171	2.8	固定資産税	79,648	52.0	-	
ゴルフ場利用税交付金	-	-	-	-	うち純固定資産税	76,709	50.1	-	
特別地方消費税交付金	-	-	-	-	軽自動車税	8,146	5.3	-	
自動車取得税交付金	5,195	0.1	5,195	0.4	市町村たばこ税	3,516	2.3	-	
軽油引取税交付金	-	-	-	-	鉱産税	-	-	-	
地方特例交付金	157	0.0	157	0.0	特別土地保有税	-	-	-	
地方交付税	1,783,263	34.8	1,125,903	83.8	法定外普通税	-	-	-	
普通交付税	1,125,903	22.0	1,125,903	83.8	目的税	-	-	-	
特別交付税	657,360	12.8	-	-	法定目的税	-	-	-	
震災復興特別交付税	-	-	-	-	入湯税	-	-	-	
(一般財源計)	1,994,804	38.9	1,337,444	99.6	事業所税	-	-	-	
交通安全対策特別交付金	-	-	-	-	都市計画税	-	-	-	
分担金・負担金	68,516	1.3	-	-	水利地益税等	-	-	-	
使用料	29,982	0.6	-	-	法定外目的税	-	-	-	
手数料	1,875	0.0	-	-	旧法による税	-	-	-	
国庫支出金	1,136,680	22.2	-	-	合計	153,257	100.0	484	
国有提供交付金(特別区財調交付金)	-	-	-	-					
都道府県支出金	538,012	10.5	-	-					
財産収入	16,116	0.3	5,795	0.4					
寄附金	31,589	0.6	-	-					
繰入金	302,374	5.9	-	-					
繰越金	195,526	3.8	-	-					
諸収入	250,373	4.9	100	0.0					
地方債	556,291	10.9	-	-					
うち減収補填債(特例分)	-	-	-	-					
うち臨時財政対策債	50,991	1.0	-	-					
歳入合計	5,122,138	100.0	1,343,339	100.0					

区分		平成30年度	平成29年度
徴収率	現・計	97.9	94.1
(%)	年	98.5	96.5
		97.3	91.7
		97.6	92.3

公営事業等への繰出		国民健康保険事業会計の状況	
合計	204,393	実質収支	-2,812
簡易水道	21,294	再差引収支	-25,190
上水道	-	加入世帯数(世帯)	333
工業用水道	-	被保険者数(人)	624
交通	-	被保険者	79
国民健康保険	56,411	1人当り	保険税(料)収入額
その他	126,688		国庫支出金
			保険給付費
			354

(注釈)
 普通建設事業費の補助事業費には受託事業費のうちの補助事業費を含み、
 単独事業費には同級他団体施行事業負担金及び受託事業費のうちの単独事業費を含む。

歳出の状況 (単位 千円・%)				
目的別歳出の状況 (単位 千円・%)				
区分	決算額 (A)	構成比	(A)のうち普通建設事業費	(A)のうち充当一般財源等
議会費	56,608	1.2	-	56,608
総務費	668,475	13.9	55,530	568,469
民生費	593,395	12.4	30,391	372,301
衛生費	196,101	4.1	11,545	138,596
労働費	-	-	-	-
農林水産業費	170,811	3.6	15,227	83,778
商工費	126,463	2.6	22,804	87,531
土木費	593,078	12.3	274,889	149,536
消防費	137,709	2.9	27,769	91,553
教育費	142,901	3.0	1,000	136,124
災害復旧費	1,898,445	39.5	-	232,160
公債費	220,642	4.6	-	212,936
諸支出金	-	-	-	-
前年度繰上充用金	-	-	-	-
歳出合計	4,804,628	100.0	439,155	2,129,592

性質別歳出の状況 (単位 千円・%)					
区分	決算額	構成比	充当一般財源等	経常経費充当一般財源等	経常収支比率
義務的経費計	1,006,296	20.9	842,109	704,174	50.5
人件費	620,129	12.9	546,779	451,268	32.4
うち職員給	341,202	7.1	338,202	-	-
扶助費	165,525	3.4	82,394	39,970	2.9
公債費	220,642	4.6	212,936	212,936	15.3
元利償還金	220,642	4.6	212,936	212,936	15.3
うち元金	206,539	4.3	200,027	200,027	14.3
うち利子	14,103	0.3	12,909	12,909	0.9
一時借入金利子	-	-	-	-	-
その他の経費	1,460,732	30.4	995,677	498,707	35.8
物件費	604,930	12.6	474,935	182,440	13.1
維持補修費	4,434	0.1	4,434	4,434	0.3
補助費等	440,370	9.2	342,640	158,512	11.4
うち一部事務組合負担金	98,005	2.0	98,005	95,780	6.9
繰出金	204,393	4.3	170,605	153,321	11.0
積立金	206,605	4.3	3,063	-	-
投資・出資金・貸付金	-	-	-	-	-
前年度繰上充用金	-	-	-	-	-
投資的経費計	2,337,600	48.7	291,806	-	-
うち人件費	10,035	0.2	10,035	-	-
普通建設事業費	439,155	9.1	59,646	-	-
うち補助	59,378	1.2	15,306	-	-
うち単独	152,301	3.2	33,464	-	-
災害復旧事業費	1,898,445	39.5	232,160	-	-
失業対策事業費	-	-	-	-	-
歳出合計	4,804,628	100.0	2,129,592	-	-

(2)各会計、関係団体の財政状況及び健全化判断比率（市町村）

平成30年度 福岡県東峰村

一般会計等の財政状況(単位:百万円)

会計名	歳入	歳出	形式収支	実質収支	他会計等からの繰入金	地方債現在高	備考
1 一般会計	5,122	4,805	318	101	302	2,912	
2							
3							
4							
5							
6							
7							
8							
9							
10							
11							
12							
13							
14							
15							
16							
計 一般会計等(純計)	5,122	4,805	318	101		2,912	実質赤字額

※一般会計等(純計)は、各会計の相互間の繰入・繰出等の重複を控除したものであり、各会計の合計と一致しない場合がある。

公営企業会計等の財政状況(単位:百万円)

会計名	総収益(歳入)	総費用(歳出)	純損益(形式収支)	資金剰余額/不足額(実質収支)	他会計等からの繰入金	企業債(地方債)現在高	左のうち一般会計等繰入見込額	資金不足比率	備考
1 国民健康保険事業	328	328	0	0	56	-	-	-	
2 後期高齢者医療	39	39	0	0	17	-	-	-	
3 簡易水道事業	195	195	0	0	21	222	155	-	法非適用企業
4									
5									
6									
7									
8									
9									
10									
11									
12									
13									
14									
15									
16									
17									
18									
19									
20									
21									
22									
23									
24									
25									
26									
27									
28									
29									
30									
31									
32									
33									
34									
35									
計 公営企業会計等				0		222	155		連結実質赤字額

関係する一部事務組合等の財政状況(単位:百万円)

一部事務組合等名	総収益(歳入)	総費用(歳出)	純損益(形式収支)	資金剰余額/不足額(実質収支)	他会計等からの繰入金	企業債(地方債)現在高	左のうち一般会計等繰入見込額	備考
1 福岡県市町村消防員等公務災害補償組合(一般会計)	102	101	1	1	-	-	-	
2 福岡県市町村職員退職手当組合(一般会計)	11,887	11,522	366	366	-	-	-	
3 福岡県市町村職員退職手当組合(基金特別会計)	59	59	-	-	-	-	-	
4 福岡県自治会館管理組合(一般会計)	183	170	13	13	-	-	-	
5 甘木・朝倉広域市町村圏事務組合(一般会計)	157	152	5	5	-	-	-	
6 甘木・朝倉広域市町村圏事務組合(消防特別会計)	1,372	1,329	42	42	-	510	30	
7 甘木・朝倉・三井環境施設組合(一般会計)	2,384	2,231	153	153	-	1,037	41	
8 福岡県自治振興組合(一般会計)	291	277	13	13	90	-	-	
9 福岡県自治振興組合(公文書館事業特別会計)	66	66	-	-	-	-	-	
10 福岡県介護保険広域連合(一般会計)	985	954	31	31	-	-	-	
11 福岡県介護保険広域連合(介護保険事業特別会計)	70,107	67,173	-	2,934	169	-	-	
12 福岡県後期高齢者医療広域連合(一般会計)	244	231	13	13	36	-	-	
13 福岡県後期高齢者医療広域連合(後期高齢者医療特別会計)	767,604	751,444	16,160	16,160	-	-	-	
計 一部事務組合等				19,731		1,547	71	

地方公社・第三セクター等の経営状況及び地方公共団体の財政的支援の状況(単位:百万円)

地方公社・第三セクター等名	経常損益	純資産又は正味財産	当該団体からの出資金	当該団体からの補助金	当該団体からの買付金	当該団体からの債務保証に係る債務残高	当該団体からの損失補償に係る債務残高	一般会計等負担見込額	備考
1 小石原陶の里	▲ 2	63	13	-	-	-	-	-	
2 宝珠山ふるさと村	▲ 9	163	235	-	-	-	-	-	
3									
4									
5									
6									
7									
8									
9									
10									
11									
12									
13									
14									
15									
16									
17									
18									
19									
20									
21									
22									
23									
24									
25									
26									
27									
28									
29									
30									
31									
32									
33									
34									
35									
36									
37									
38									
39									
40									
41									
42									
43									
44									
45									
46									
47									
48									
49									
50									
51									
52									
53									
54									
55									
56									
57									
58									
59									
60									
61									
62									
63									
64									
65									
66									
67									
68									
69									
70									
71									
72									
73									
74									
75									
76									
77									
78									
79									
80									
81									
82									
計 地方公社・第三セクター等						248			

※地方公共団体が①25%以上出資している法人又は②財政的支援を行っている法人を記載している。

※地方公共団体財政健全化法に基づき将来負担比率の算定対象となっている法人については、○印を付与している。

公債費負担の状況

区分	実質公債費比率 (千円・%)			
	平成28年度	平成29年度	平成30年度	分母比
元利償還金	250,253	206,582	220,642	18.2
減債基金積立不足算定額	-	-	-	-
満期一括償還地方債に係る年度割相当額	-	-	-	-
準元利償還金	17,097	12,830	10,006	0.8
組合等が起した地方債の元利償還金に対する負担金等	26,476	19,269	12,695	1.0
債務負担行為に基づく支出額(公債費に準ずるもの)	4,430	4,430	-	-
一時借入金の利子	-	-	-	-
合計 (A)	298,256	243,111	243,343	
内訳	平成28年度	平成29年度	平成30年度	分母比
PFI事業に係るもの	-	-	-	-
いわゆる五省協定等に係るもの	-	-	-	-
国営土地改良事業・森林総合研究所等が行う事業に係るもの	-	-	-	-
地方公務員等共済組合に係るもの	-	-	-	-
社会福祉法人の施設建設費に係るもの	-	-	-	-
損失補償・債務保証の履行に係るもの	-	-	-	-
引き受けた債務の履行に係るもの	-	-	-	-
その他上記に準ずるもの	-	-	-	-
利子補給に係るもの	4,430	4,430	-	-
特定財源の額 (B)	7,456	7,456	7,706	
標準財政規模 (C)	1,472,682	1,367,833	1,382,643	
算入公債費等の額 (D)	217,167	169,658	170,424	
(C)-(D)	1,255,515	1,198,175	1,212,219	
実質公債費比率 (単年度)	5.9	5.5	5.4	
((A)-(B)+(D))/((C)-(D)) × 100 (3カ年平均)	7.4	6.1	5.5	

将来負担の状況

区分	将来負担比率 (千円・%)			
	平成28年度	平成29年度	平成30年度	分母比
将来負担額	2,419,713	2,562,325	2,912,078	240.2
一般会計等に係る地方債の現在高	2,419,713	2,562,32		

(3) 市町村財政比較分析表(普通会計決算)

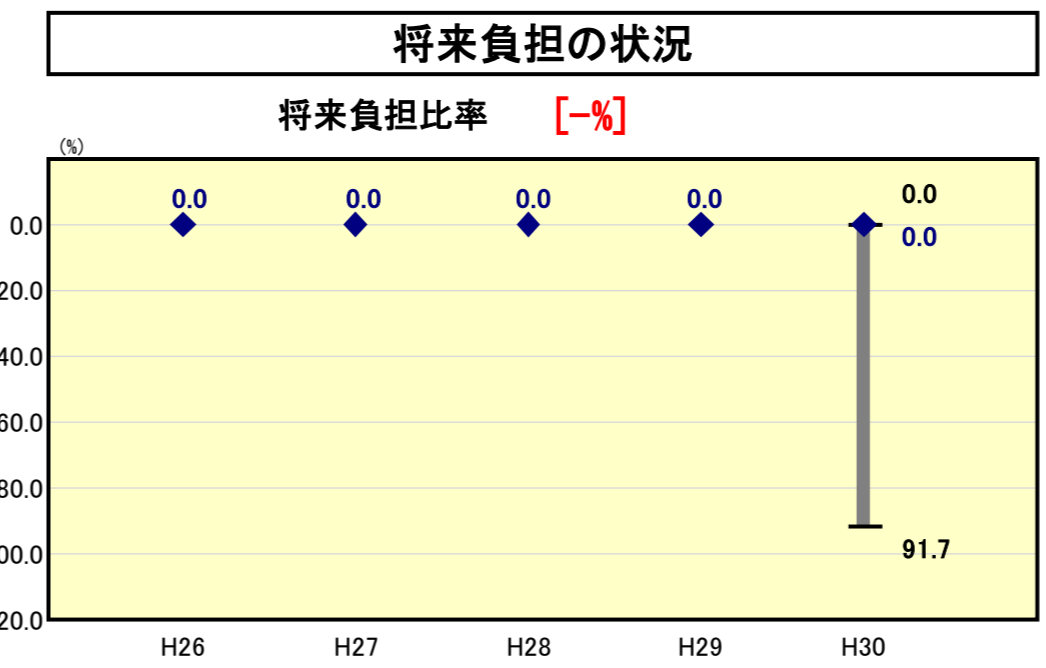
平成30年度

福岡県東峰村

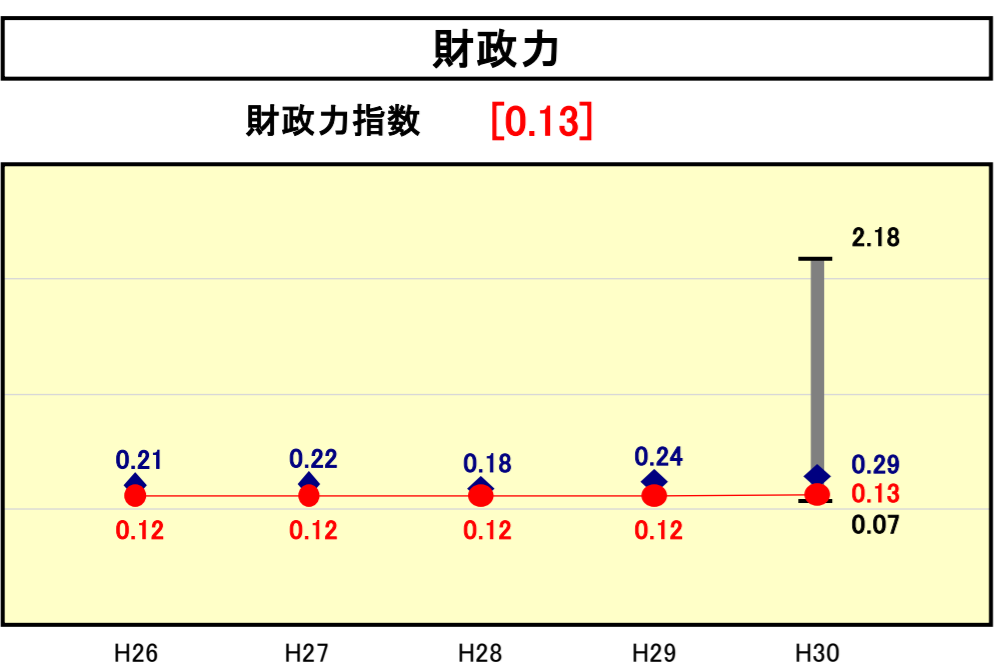
人口	2,128	人(H31.1.1現在)	実質赤字比率	-	%
うち日本人	2,120	人(H31.1.1現在)	連結実質赤字比率	-	%
面積	51.97	km ²	実質公債費比率	5.5	%
歳入総額	5,122,138	千円	将来負担比率	-	%
歳出総額	4,804,628	千円	市町村類型	H26 I-1 H27 I-1 H28 I-1	
実質収支	101,089	千円	(年度毎)	H29 I-1 H30 I-1	
標準財政規模	1,382,643	千円			
地方債現在高	2,912,078	千円			

● 当該団体値
◆ 類似団体内平均値
T 類似団体内の最大値及び最小値

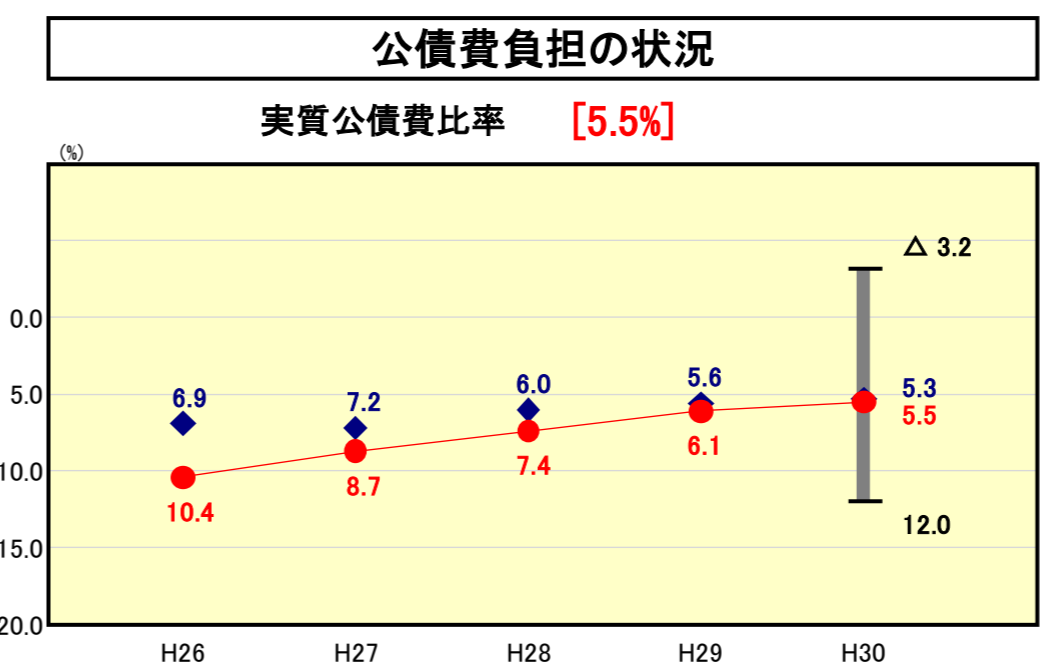
※市町村類型とは、人口および産業構造等により全国の市町村を35のグループに分類したものである。当該団体と同じグループに属する団体を類似団体と言う。
 ※平成31年度中に市町村合併した団体で、合併前の団体ごとの決算に基づく実質公債費比率及び将来負担比率を算出していない団体については、グラフを表記しない。
 ※充当可能財源等が将来負担額を上回っている団体については、将来負担比率のグラフを表記しない。
 ※「人件費・物件費等の状況」の決算額は、人件費、物件費及び維持補修費の合計である。ただし、人件費には事業費支弁人件費を含み、退職金は含まない。
 ※人口については、各調査対象年度の1月1日現在の住民基本台帳に記載されている人口に基づいている。
 ※類似団体内順位、全国平均、各都道府県平均は、平成30年度決算の状況である。また類似団体が存在しない場合、類似団体内順位を表示しない。



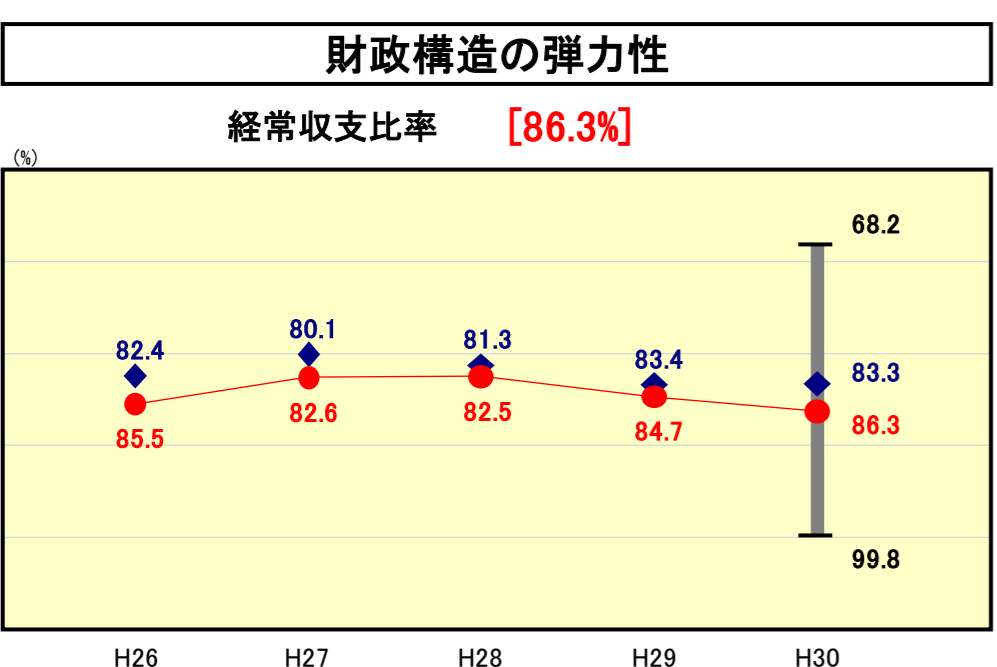
将来負担比率の分析欄
 事業の選別による起債の抑制や、既発債の償還額が減少の傾向にあること、平成17年度から30年度までの間に7名(12.1%)の職員の削減(再任用職員・任期付職員を含む)などにより、平成23年度決算時以降マイナス比率の状態が継続している。今後も後世への負担を増やさないよう、公債費等義務的経費の削減に努め、財政の健全化を図る。



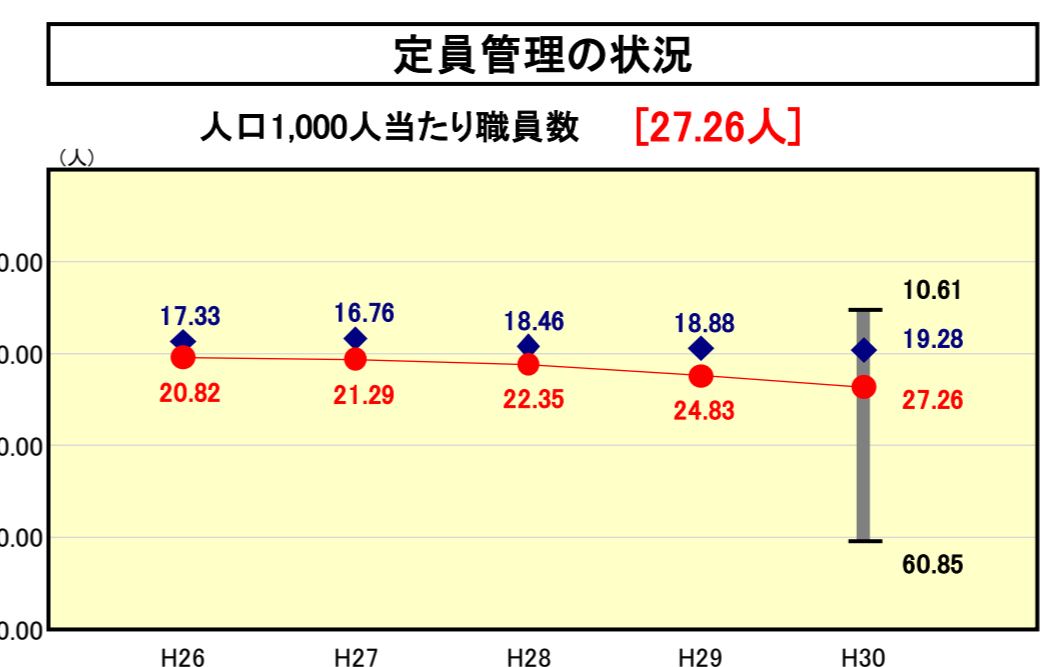
財政力指数の分析欄
 人口の減少や全国平均を上回る高齢化率(平成30年度末42.7%)に加え所得も伸び悩む傾向にあり、全国平均、福岡県平均を大きく下回る数値で推移している。今後も歳出削減(物件費の抑制や補助費等の見直し)や定数管理等による行財政のスリム化を図り効率化に努める。



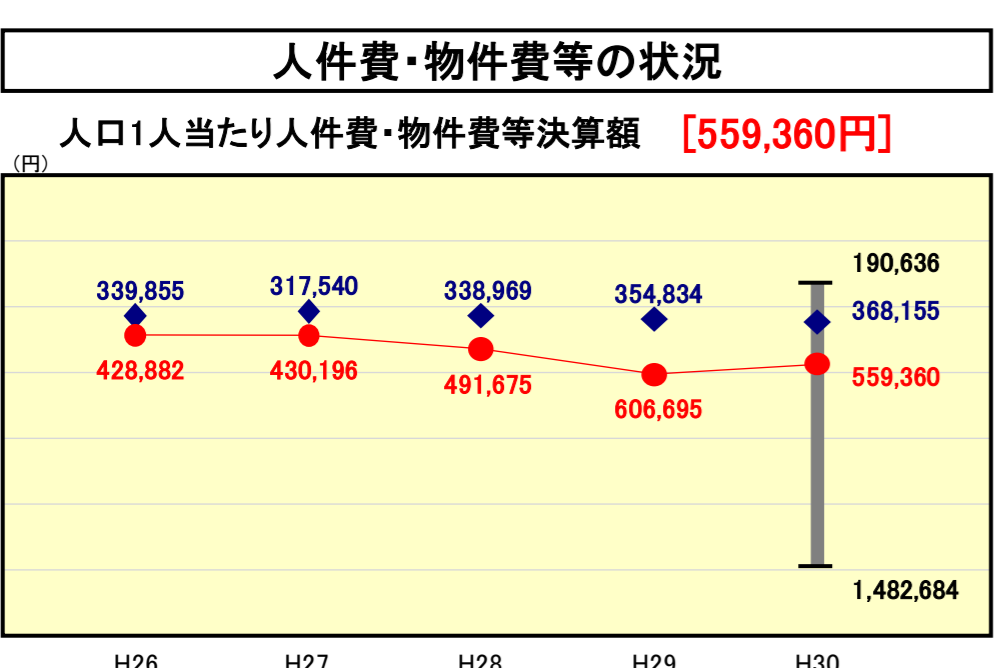
実質公債費比率の分析欄
 実質公債費比率については、償還期間が短い合併特例事業債及び過疎対策事業債の残高が全体残高の44.8%を占めており毎年の償還額が比較的多額になっていることが比率を押し上げる要因だと考える。今後も事業の選別等により起債の抑制を図ることに努める。



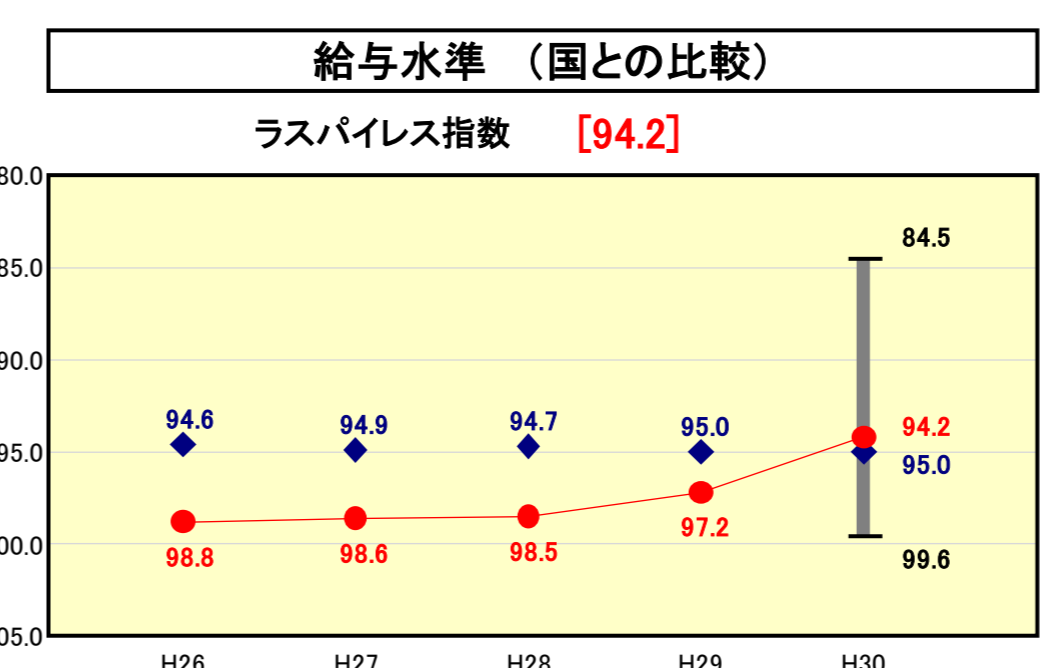
経常収支比率の分析欄
 公債費償還のピークを過ぎ、また、事業の選別等による起債の抑制を行うことにより、比率が100を超過していた合併当初と比較すると改善している。今後も引き続き、人件費や公債費について上昇を抑えることに努める。



人口1,000人当たり職員数の分析欄
 平成30年度は次の数値を引用(職員数:58名、人口:2,128人)。平成17年度から30年度までの間に職員は7名減少(再任用・任期付職員を含む)、12.1%の削減となったところであるが、人口千人あたり職員数については、類似団体平均を上回っている状況である。東峰村定員管理計画(H27~H36)に基づき「現状維持52人」としているが、平成29年度から災害復旧事業に従事する任期付職員の増が見られる。今後も災害復旧・復興を含め、住民サービスの低下を招くことのない水準を維持しながら、人口規模にあった職員数についての検討を行っていく。



人口1人当たり人件費・物件費等決算額の分析欄
 全国平均、福岡県平均のいずれをも上回っている。人件費については職員数の適正化に努め、平成17年度から30年度までの間に7名(12.1%)の職員の削減(再任用職員・任期付職員を含む)を行っているところだが、その一方で人口が年々減少していることが影響を及ぼしている。今後も引き続き職員数の適正化や物件費の抑制策について検討を重ねていく必要がある。



ラスパイレス指数の分析欄
 平成30年度は平成29年度数値を引用。なお、平成30年度類似団体関係数値(平均値、最大値及び最小値、順位)は、平成30年度の選定団体によるもの。ラスパイレス指数が94.2(対前年度比▲3.0)となり、類似団体平均を0.8下回り、全国町村平均をも2.1下回っている。このことについては、平成29年度から平成30年度にかけて高齢者の任期付職員の採用が要因となっているとともに、以前として他団体と比較して職員数が少なく年齢層に偏在性があることもその要因だと考えられる。地域の状況等を踏まえ給与の適正化に努める。

(4)-1 市町村経常経費分析表(普通会計決算)

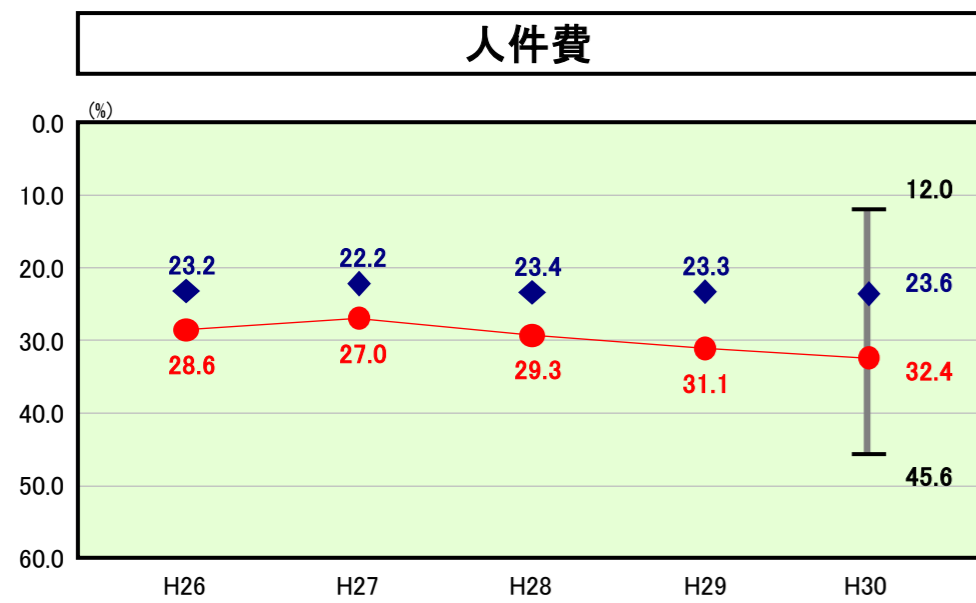
平成30年度

福岡県東峰村

経常収支比率の分析

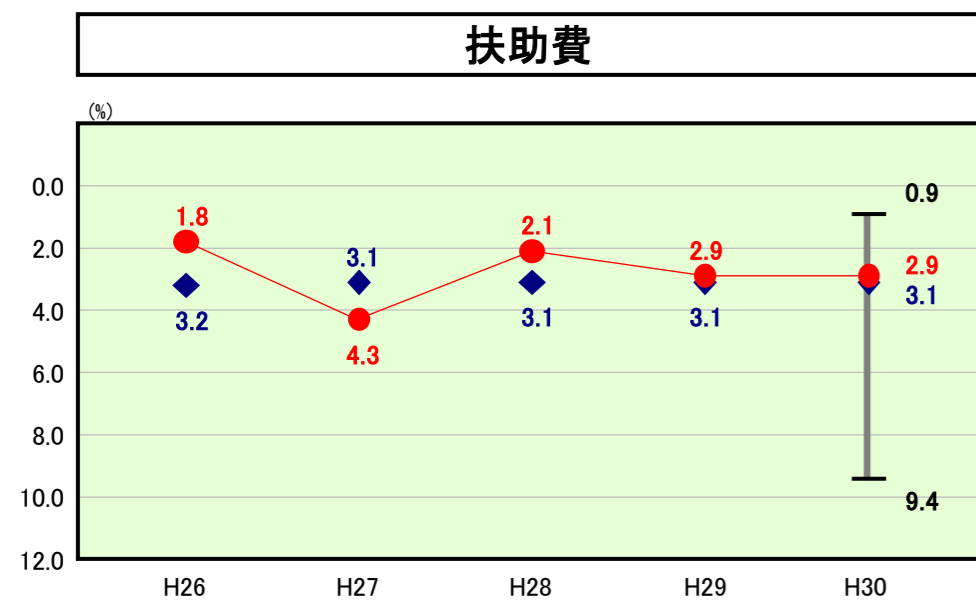
人口	2,128	人(H31.1.1現在)	実質赤字比率	-	%
うち日本人	2,120	人(H31.1.1現在)	連結実質赤字比率	-	%
面積	51.97	km ²	実質公債費比率	5.5	%
歳入総額	5,122,138	千円	将来負担比率	-	%
歳出総額	4,804,628	千円	市町村類型	H26 I-1 H27 I-1 H28 I-1	
実質収支	101,089	千円	(年度毎)	H29 I-1 H30 I-1	
標準財政規模	1,382,643	千円			
地方債現在高	2,912,078	千円			

※ 市町村類型とは、人口および産業構造等により全国の市町村を35のグループに分類したものである。当該団体と同じグループに属する団体を類似団体と言う。
 ※ 人口については、各調査対象年度の1月1日現在の住民基本台帳に記載されている人口に基づいている。
 ※ 類似団体内順位、全国平均、各都道府県平均は、平成30年度決算の状況である。また類似団体が存在しない場合、類似団体内順位を表示しない。



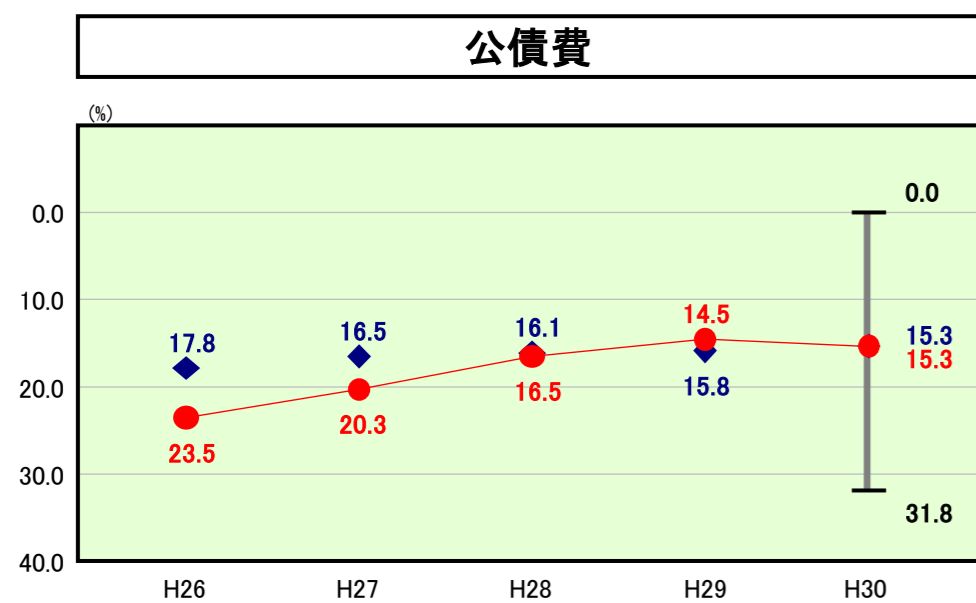
人件費の分析欄

人件費については、給与表や期末・勤勉手当の改定等を踏まえても大きい変動は見られないので相対的な抑制の傾向にあると考える。
 今後も引き続き計画的な定員管理や給与の在り方についての検討を行っていく。



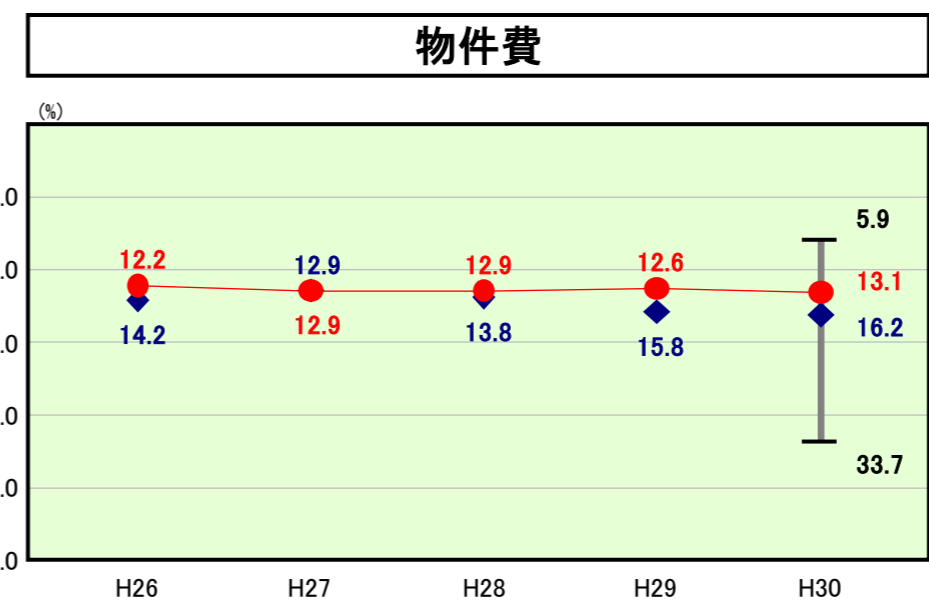
扶助費の分析欄

児童数の減少に伴う保育所運営費の減や、高齢化の進行による高齢者福祉費の増、障害者福祉費の受給者増などにより昨年並みとなった。
 今後も社会保障等へのニーズは高まっていくものと思われるので、財源の確保についての検討が求められる。



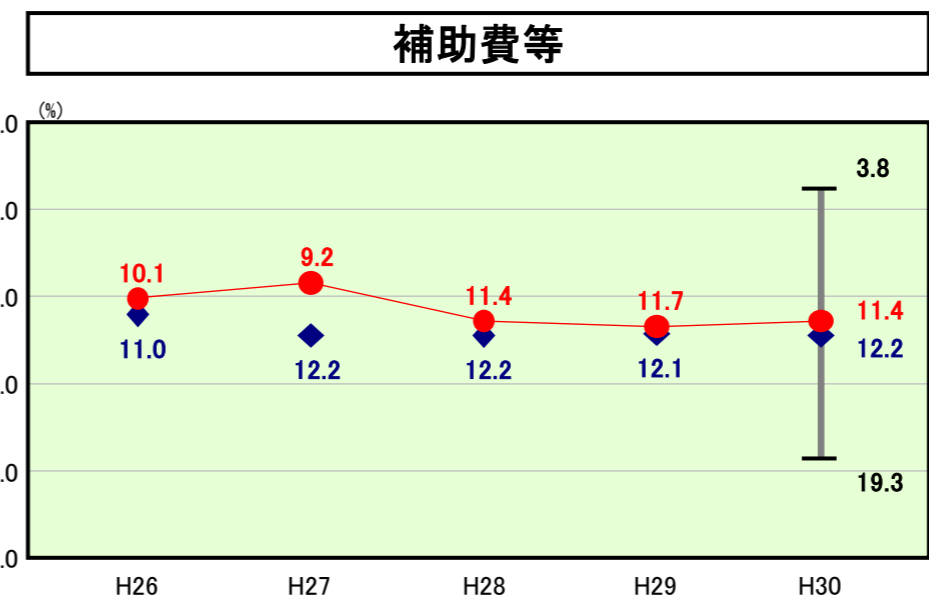
公債費の分析欄

償還期間が短い合併特例事業債及び過疎対策事業債の起債残高が全体の44.8%を占め、単年度における償還額が高い傾向にある。
 公債費が占める割合は、年々減少傾向であったが、平成26年度から平成28年度起債の過疎対策事業債等の元利償還開始に伴い増加に転じている。
 依然として全国平均や福岡県平均よりも低く、今後も新たな起債を抑制することにより適正な水準を目指していくことが求められる。



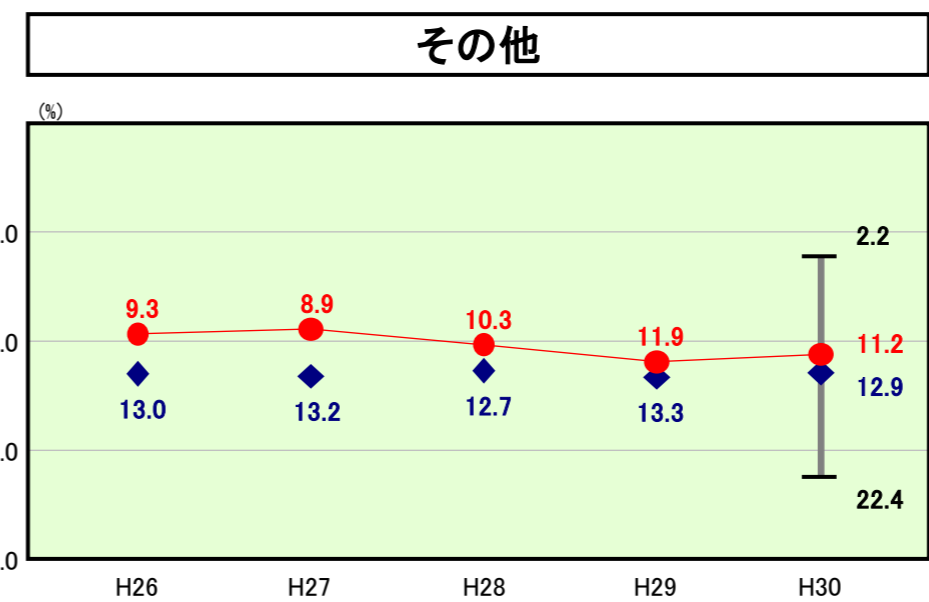
物件費の分析欄

全国平均や福岡県平均を下回っているものの、財政の健全化・安定化に向けて、支出額の多い経費を中心に、抑制の意識を浸透させていく必要がある。
 また、公共施設等総合管理計画により、公共施設等の利活用についても検討のうえ、支出の減少、収入の確保を図り、財源の安定化に努める。



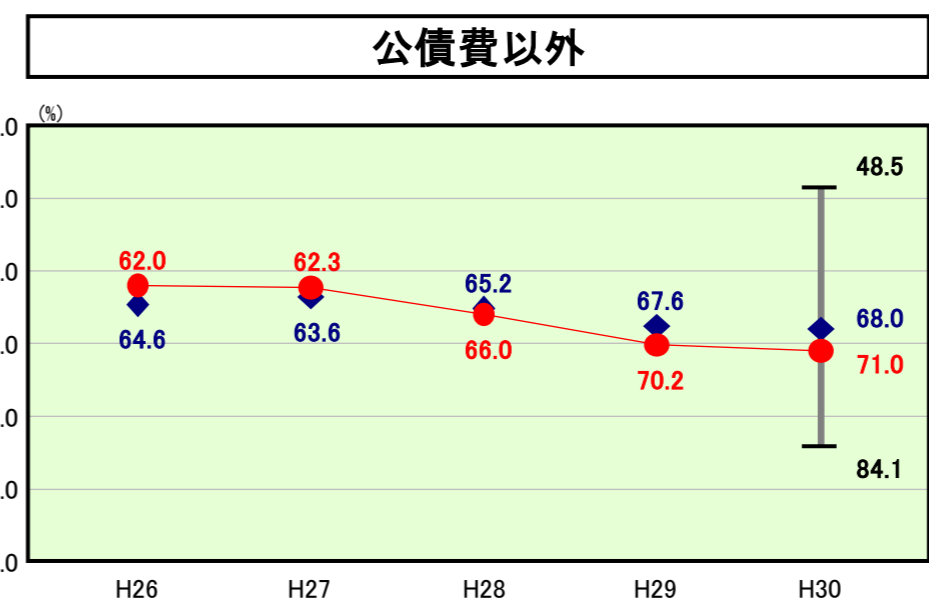
補助費等の分析欄

補助費に係る数値は、福岡県平均や全国平均を上回っているが、今後も補助の交付を受けた団体等が適正な事業実施を進めているか等の審査や検証を進め、必要性に疑問等ある場合、随時整理を行うことに努める。



その他の分析欄

その他に係る数値は、全国平均や福岡県平均を下回っている。
 しかし、今後の特別会計の経営状況次第では、繰出金の増加も十分想定されるものである。それによる費用増を抑制するために、適正な受益者負担を検討し求めていくものとする。



公債費以外の分析欄

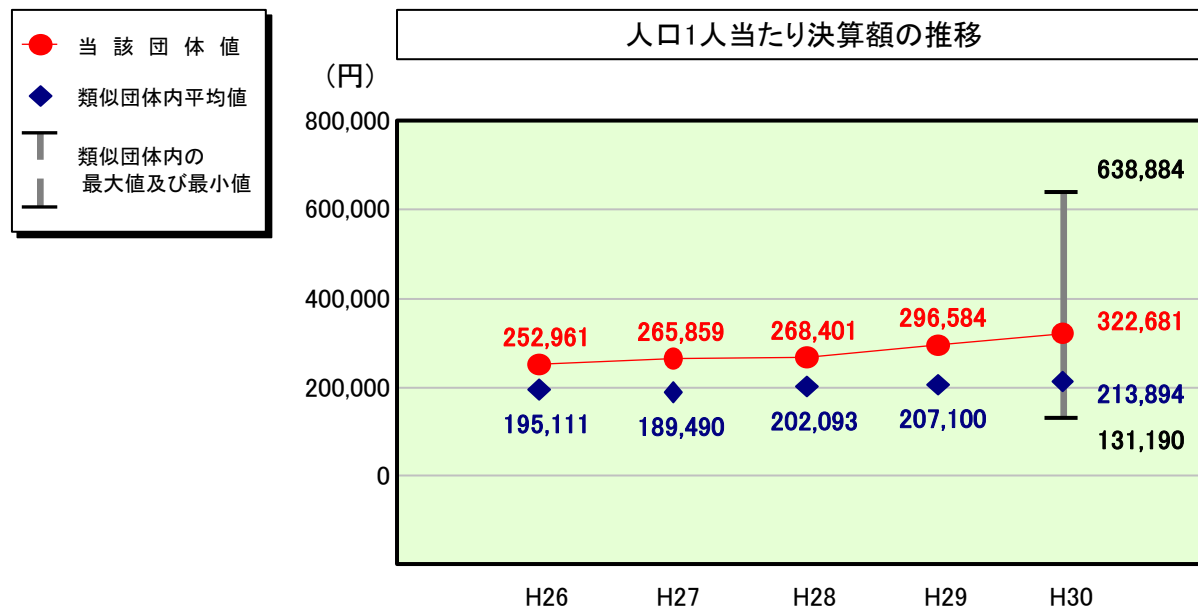
近年、増加の傾向がみられる。
 要因としてH29九州北部豪雨、H30西日本豪雨に伴う災害復旧事業の増、小石原川ダム建設に伴う水源地域整備事業の増、特別会計に対する繰出金の増の他、公債費の比率の減による相対的な増加と考えられる。

(4)-2 市町村経常経費分析表(普通会計決算)

平成30年度

福岡県東峰村

人件費及び人件費に準ずる費用の分析



人件費及び人件費に準ずる費用

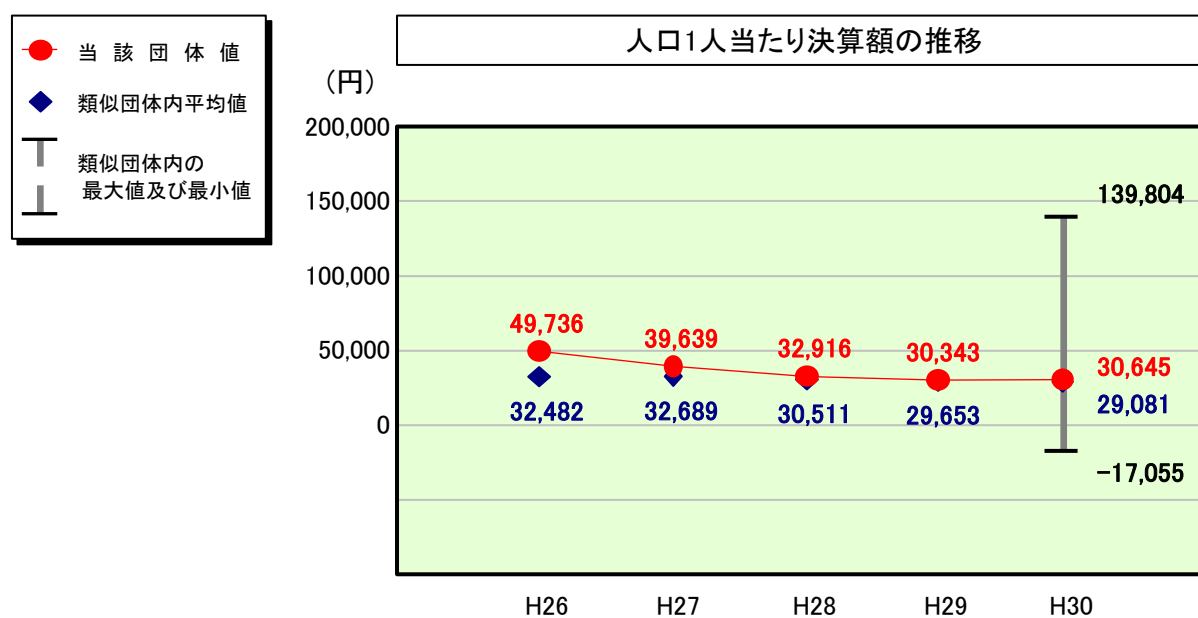
	当該団体決算額 (千円)	人口1人当たり決算額		
		当該団体 (円)	類似団体平均 (円)	対比 (%)
人件費	620,129	291,414	168,530	72.9
賃金(物件費)	29,850	14,027	21,048	▲ 33.4
一部事務組合負担金(補助費等)	49,407	23,218	26,640	▲ 12.8
公営企業(法適)等に対する繰出し(補助費等)	-	-	1,878	-
公営企業(法適)等に対する繰出し(投資及び出資金・貸付金)	-	-	-	-
公営企業(法非適)等に対する繰出し(繰出金)	26,455	12,432	7,469	66.4
事業費支弁に係る職員の人件費(投資的経費)	10,035	4,716	4,705	0.2
▲退職金	▲ 49,210	▲ 23,125	▲ 16,375	41.2
合計	686,666	322,681	213,894	50.9

参考

	当該団体	類似団体平均	対比(差引)
人口1,000人当たり職員数(人)	27.26	19.28	7.98
ラスパイレス指数	94.2	95.0	▲ 0.8

(注) 人口については、各調査対象年度の1月1日現在の住民基本台帳に登録されている人口に基づいている。

公債費及び公債費に準ずる費用の分析

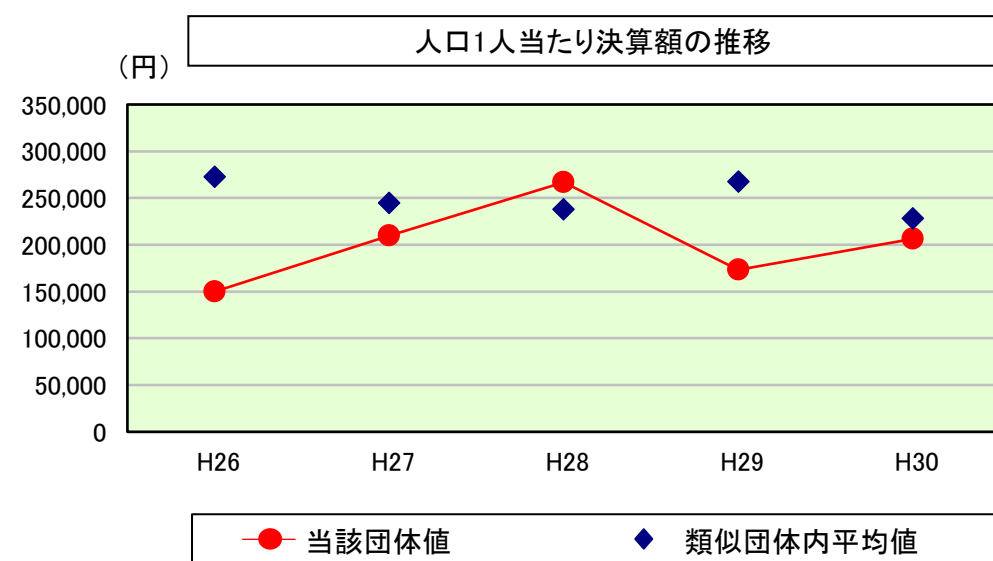


公債費及び公債費に準ずる費用(実質公債費比率の構成要素)

	当該団体決算額 (千円)	人口1人当たり決算額		
		当該団体 (円)	類似団体平均 (円)	対比 (%)
元利償還金の額 (繰上償還額等を除く)	220,642	103,685	102,582	1.1
積立不足額を考慮して算定した額	-	-	-	-
満期一括償還地方債の一年当たりの元金償還金に相当するもの (年度割相当額)	-	-	-	-
公営企業に要する経費の財源とする地方債の償還の財源に 充てたと認められる繰入金	10,006	4,702	28,843	▲ 83.7
一部事務組合等の起こした地方債に充てたと認められる 補助金又は負担金	12,695	5,966	2,374	151.3
公債費に準ずる債務負担行為に係るもの	-	-	1,030	-
一時借入金利子 (同一団体における会計間の現金運用に係る利子は除く)	-	-	19	-
▲特定財源の額	▲ 7,706	▲ 3,621	▲ 3,618	0.1
▲地方債に係る元利償還金及び準元利償還金に要する経費として 普通交付税の額の算定に用いる基準財政需要額に算入された額	▲ 170,424	▲ 80,086	▲ 102,150	▲ 21.6
合計	65,213	30,645	29,081	5.4

※平成31年度中に市町村合併した団体で、合併前の団体ごとの決算に基づく実質公債費比率を算出していない団体については、グラフを表記しない。

(参考) 普通建設事業費の分析



普通建設事業費

	当該団体決算額 (千円)	人口1人当たり決算額				
		当該団体(円)	増減率(%) (A)	類似団体平均(円)	増減率(%) (B)	(A)-(B)
H26	352,896	149,977	196.6	272,886	3.7	192.9
うち単独分	251,394	106,840	146.7	125,724	21.9	124.8
H27	483,384	209,984	40.0	245,039	▲ 10.2	50.2
うち単独分	254,817	110,694	3.6	108,922	▲ 13.4	17.0
H28	596,907	266,834	27.1	237,994	▲ 2.9	30.0
うち単独分	233,997	104,603	▲ 5.5	110,361	1.3	▲ 6.8
H29	376,936	173,304	▲ 35.1	267,911	12.6	▲ 47.7
うち単独分	146,477	67,346	▲ 35.6	106,425	▲ 3.6	▲ 32.0
H30	439,155	206,370	19.1	228,215	▲ 14.8	33.9
うち単独分	152,301	71,570	6.3	117,571	10.5	▲ 4.2
過去5年間平均	449,856	201,294	49.5	250,409	▲ 2.3	51.8
うち単独分	207,797	92,211	23.1	113,801	3.3	19.8

(5) 市町村性質別歳出決算分析表(住民一人当たりのコスト)

平成30年度

福岡県東峰村

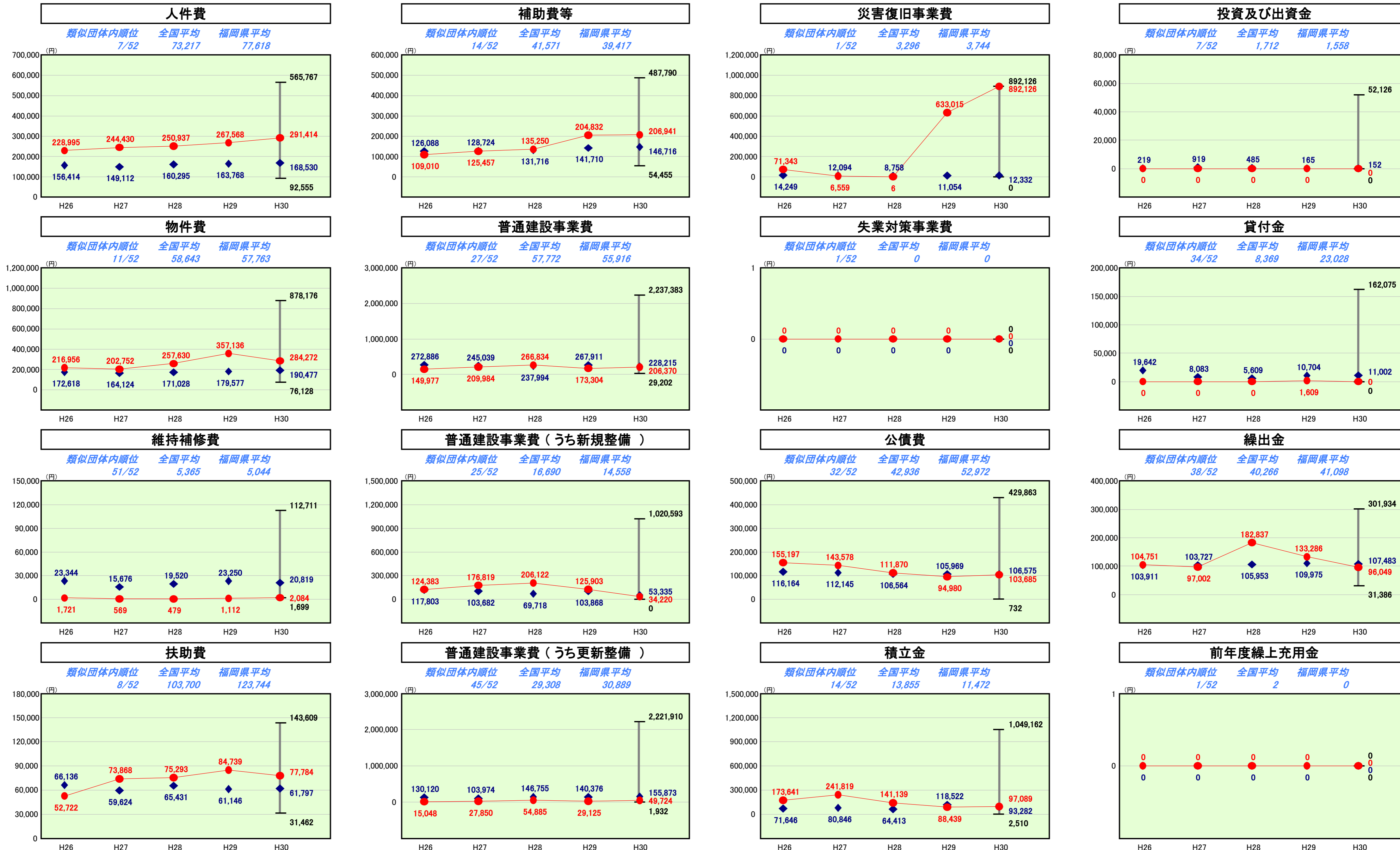
人口	2,128人(H31.1.1現在)	実質赤字比率	-%
うち日本人	2,120人(H31.1.1現在)	連結実質赤字比率	-%
面積	51.97km ²	実質公債費比率	5.5%
歳入総額	5,122,138千円	将来負担比率	-%
歳出総額	4,804,628千円	市町村類型	H26 I-1 H27 I-1 H28 I-1
実質収支	101,089千円	(年度毎)	H29 I-1 H30 I-1
標準財政規模	1,382,643千円		
地方債現在高	2,912,078千円		

● 当該団体値
◆ 類似団体内平均値
T 類似団体内の最大値及び最小値

※ 市町村類型とは、人口および産業構造等により全国の市町村を35のグループに分類したものである。当該団体と同じグループに属する団体を類似団体と言う。

※ 人口については、各調査対象年度の1月1日現在の住民基本台帳に登録されている人口に基づいている。

※ 類似団体内順位、全国平均、各都道府県平均は、平成30年度決算の状況である。また類似団体が存在しない場合、類似団体内順位を表示しない。



性質別歳出の分析欄

歳出決算総額は、住民一人あたり2,258千円となっている。

主な構成項目の一つである人件費については住民一人あたり291千円となっている。人件費については職員数の適正化に努め、平成17年度から30年度までの間に7名(12.1%)の職員の削減(再任用・任期付職員を含む)を行っているところだが、その一方で人口が年々減少していることが影響を及ぼしている。

物件費については、H29災害復旧関連の物件費の減により減少に転じたが、依然として増加傾向にある。今後については、公共施設等総合管理計画による適正な維持管理の実施や、各種施設照明のLED化により、需用費や委託料等の削減に取り組む。

扶助費については、H29災害援助費の減により減少に転じたが、依然として児童数の減少による保育所運営費の減や高齢化の進行による高齢者福祉費の増、障害者福祉費の受給者増による上昇がみられる。今後も社会保障費は増加の傾向にあると見込まれるため、財源の確保についての検討が求められる。

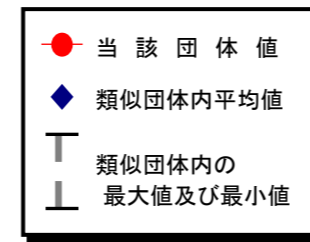
公債費については、償還期間が短い合併特例事業債及び過疎対策事業債の残高が全体の44.8%を占め、単年度における償還額が高額になり実質公債費比率を高める要因となっている。元利償還額は年々減少傾向にあったが、H26許可からH28許可過疎対策事業債等の元利償還開始に伴い増加に転じている。類似団体内順位は依然として高い傾向にあるため、今後も新たな起債を抑制することにより、適正な水準を目指す。

(6)市町村目的別歳出決算分析表(住民一人当たりのコスト)

平成30年度

福岡県東峰村

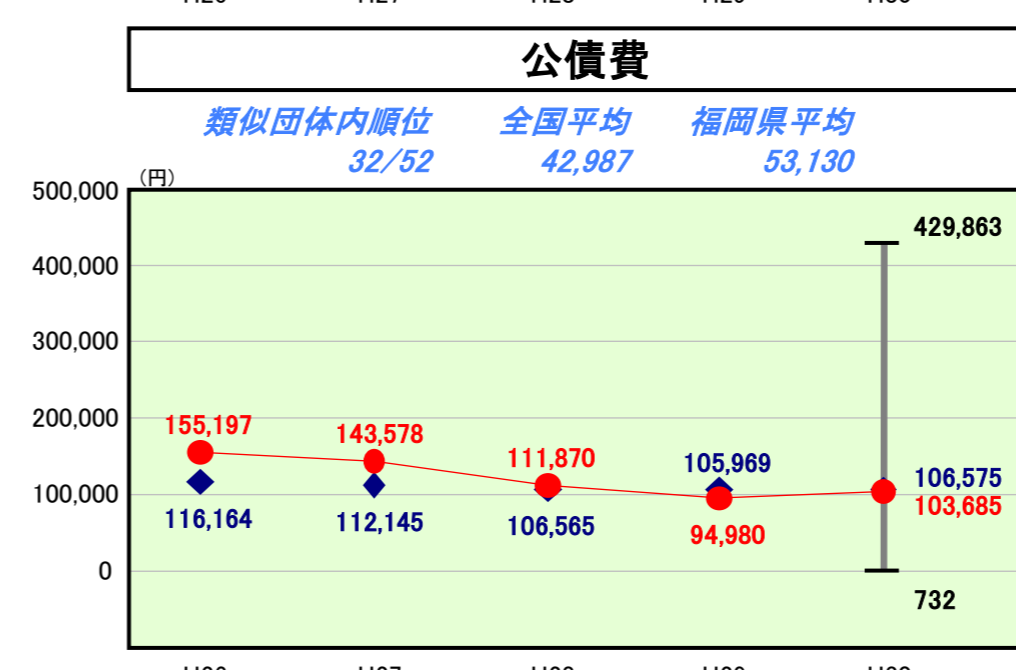
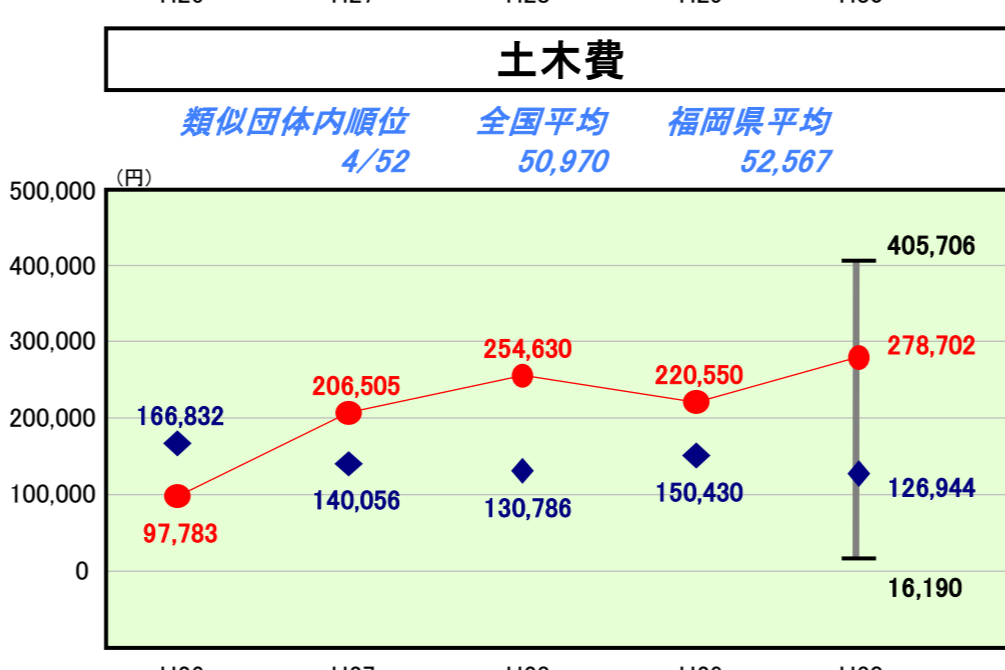
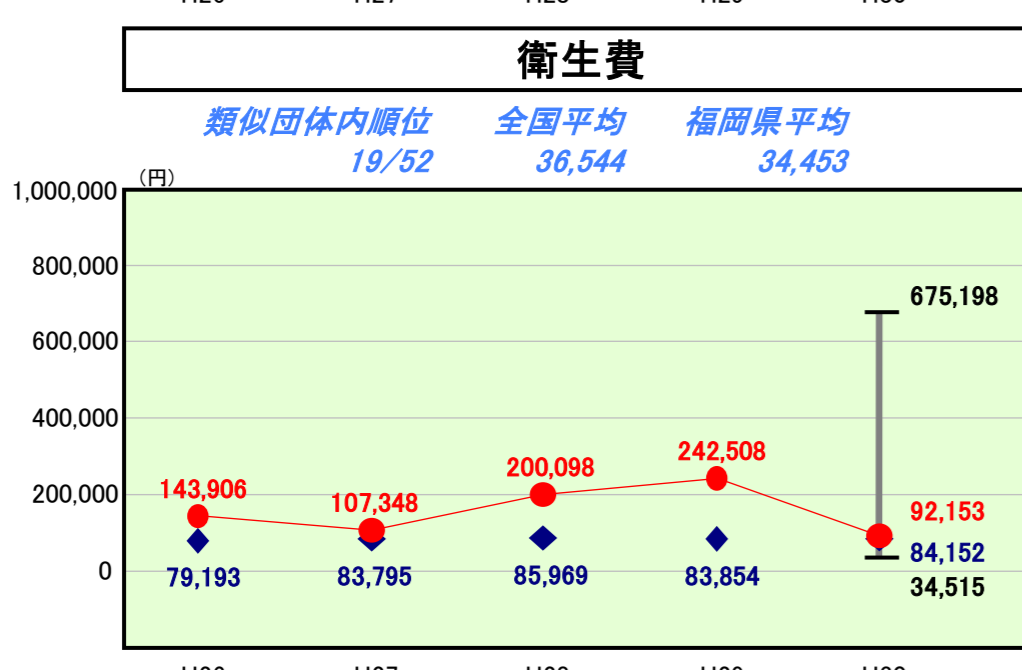
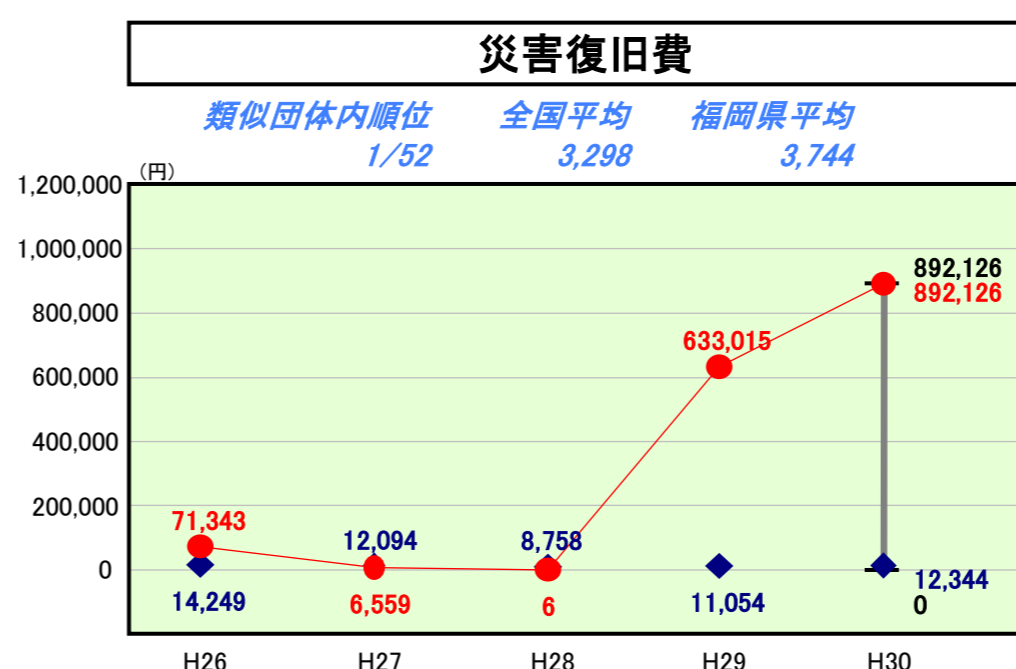
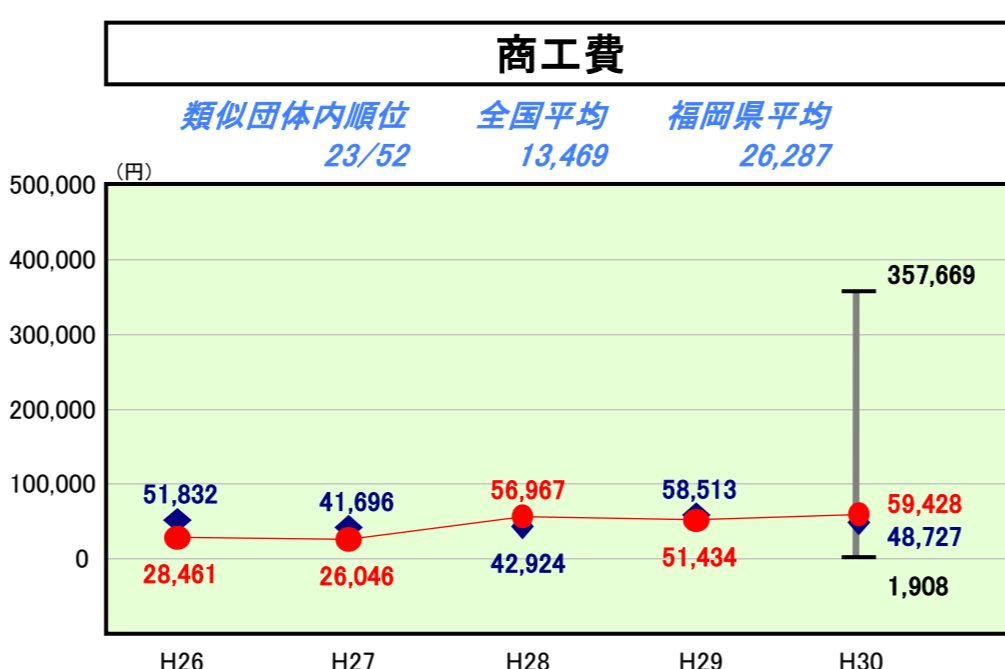
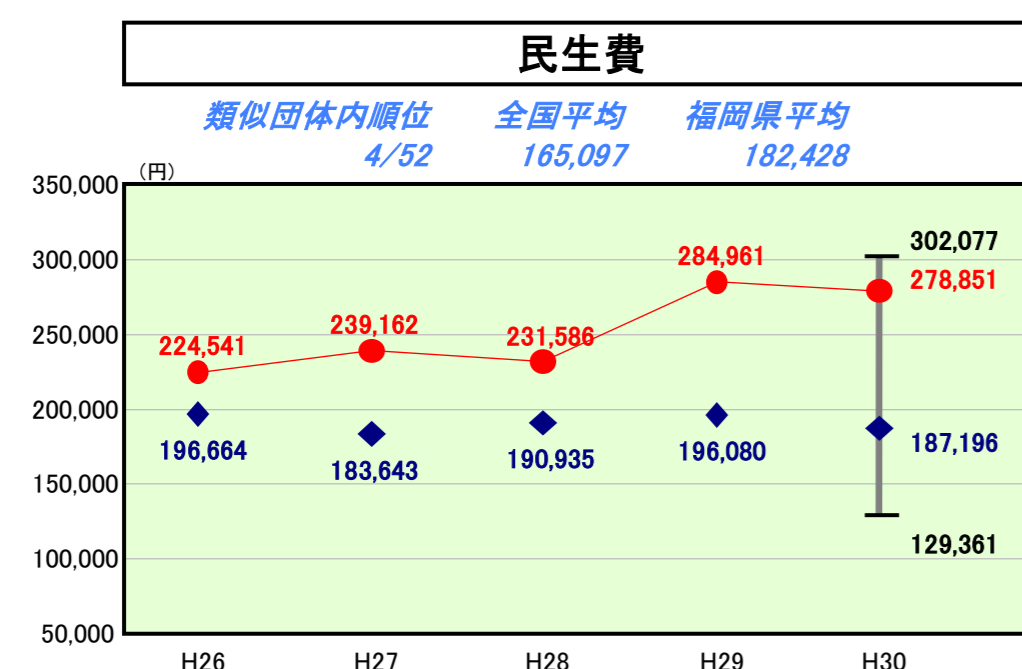
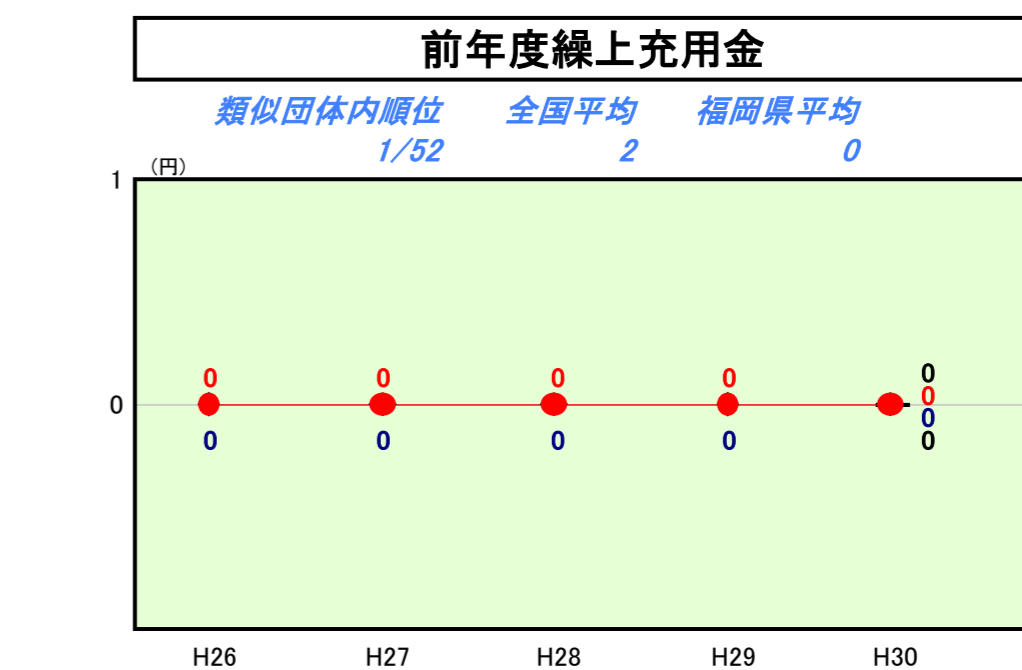
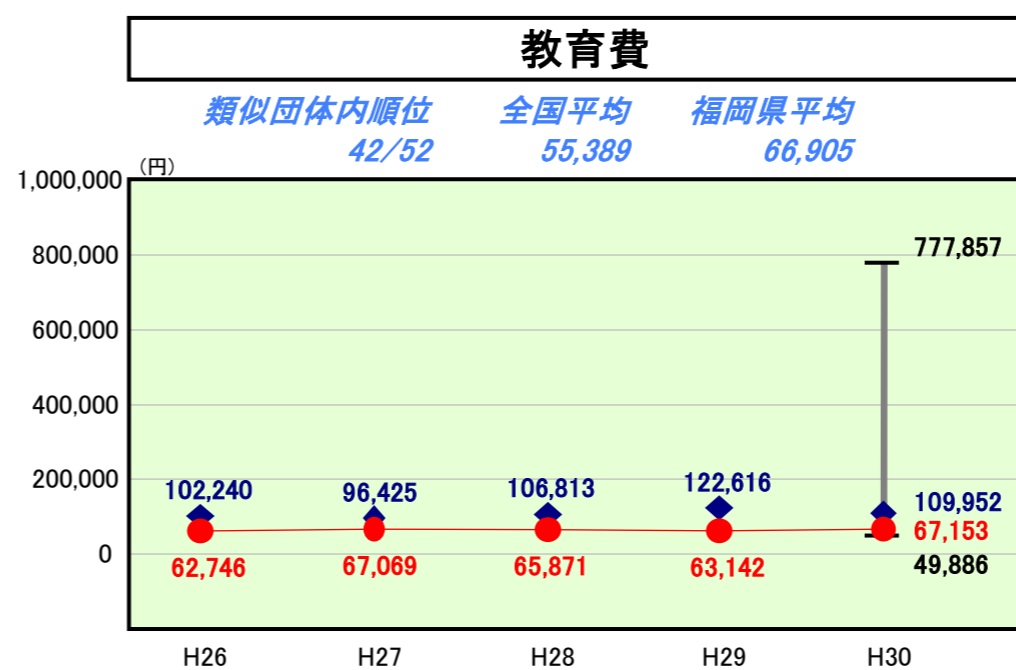
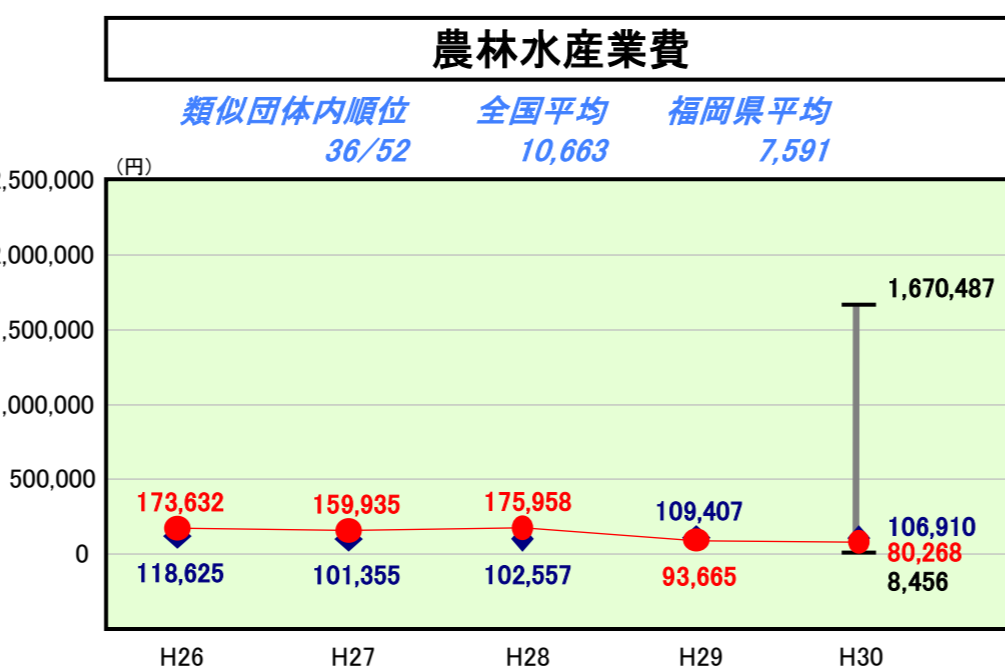
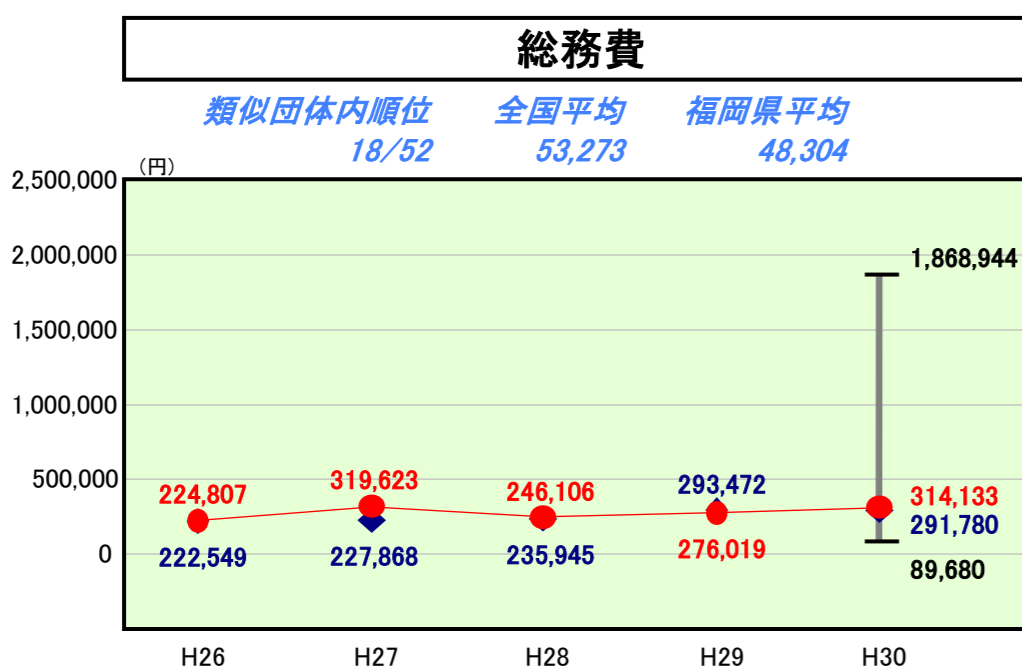
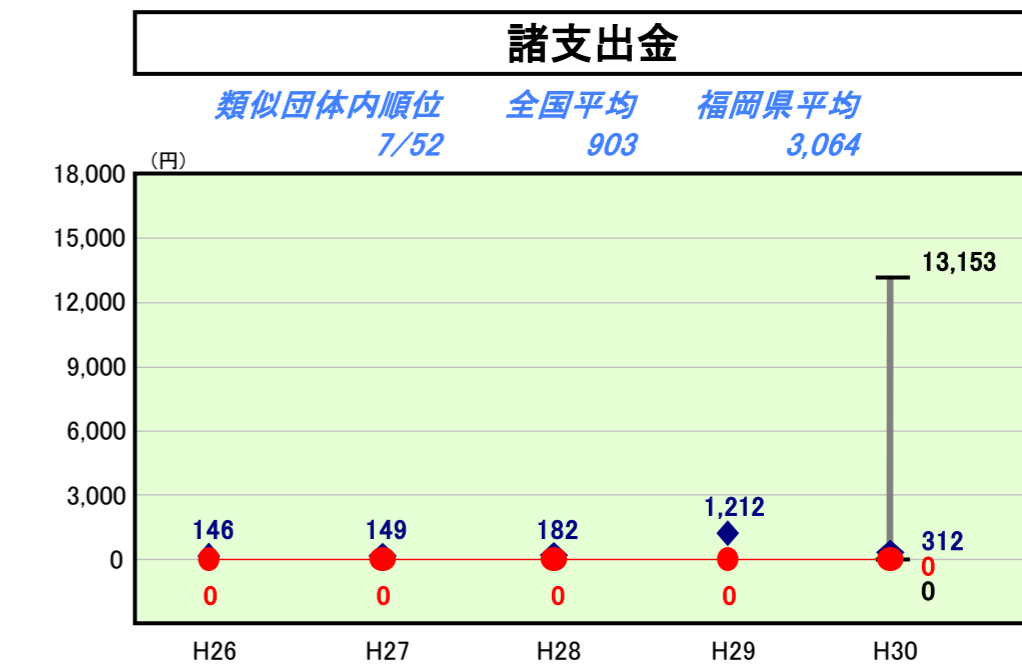
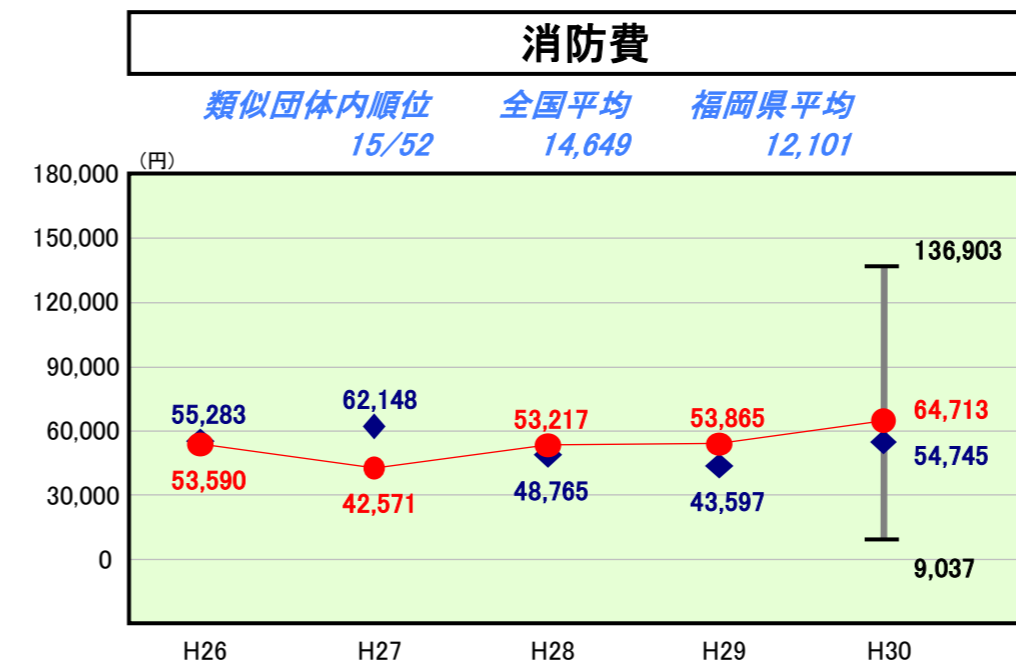
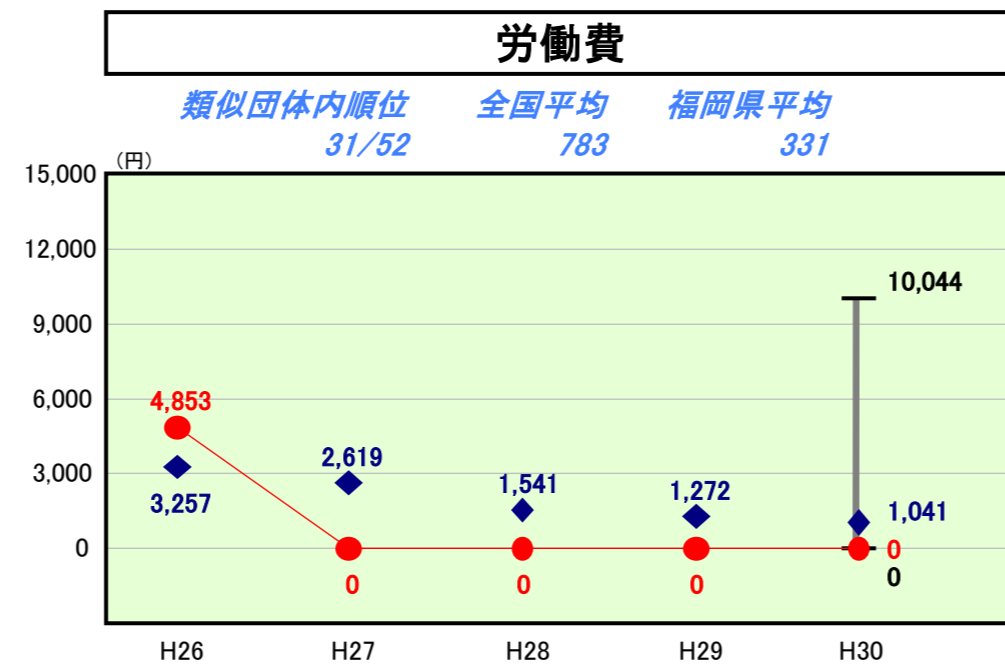
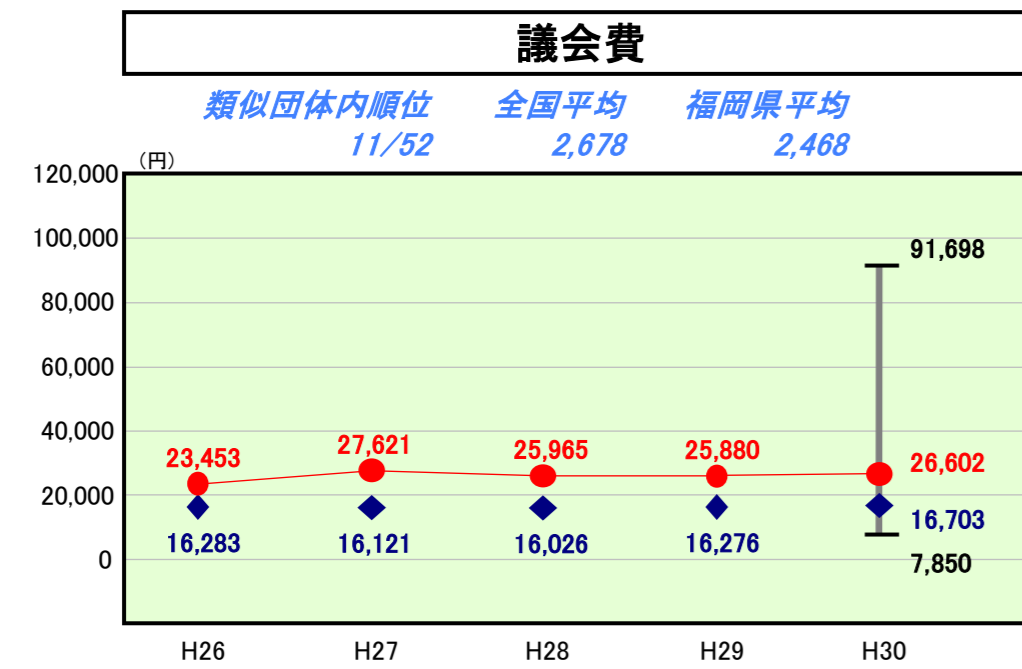
人口	2,128人(H31.1.1現在)	実質赤字比率	-%
うち日本人	2,120人(H31.1.1現在)	連結実質赤字比率	-%
面積	51.97km ²	実質公債費比率	5.5%
歳入総額	5,122,138千円	将来負担比率	-%
歳出総額	4,804,628千円	市町村類型	H26 I-1 H27 I-1 H28 I-1
実質収支	101,089千円	(年度毎)	H29 I-1 H30 I-1
標準財政規模	1,382,643千円		
地方債現在高	2,912,078千円		



※ 市町村類型とは、人口および産業構造等により全国の市町村を35のグループに分類したものである。当該団体と同じグループに属する団体を類似団体と言う。

※ 人口については、各調査対象年度の1月1日現在の住民基本台帳に登録されている人口に基づいている。

※ 類似団体内順位、全国平均、各都道府県平均は、平成30年度決算の状況である。また類似団体が存在しない場合、類似団体内順位を表示しない。



目的別歳出の分析欄

歳出決算総額は、住民一人あたり2,258千円となっている。

民生費については、扶助費においてH29災害援助費の減により減少に転じたが、依然として児童数の減少による児童福祉費の減や高齢化の進行による高齢者福祉費の増、障害者福祉費の受給者増により増加がみられる。今後も民生費については増加の傾向にあると見込まれるため、財源の確保についての検討が求められる。

土木費については、公営住宅小石原上町団地整備事業の減、定住促進住宅中原団地整備事業の増により相対的に増加したものである。今後、定住促進住宅中原団地整備事業の継続実施が見込まれている。

衛生費については、H29災害等廃棄物処理業務委託費の減、H29災害等廃棄物処理に係る補助金の減、また簡易水道事業特別会計への繰上金の減により大幅に減少したものである。

災害復旧費については、歳出総額の39.5%を占める。これはH29九州北部豪雨及びH30西日本豪雨による大規模災害に係る公共土木施設、農地・農業用施設、林道施設等の災害復旧事業費が急増したものである。

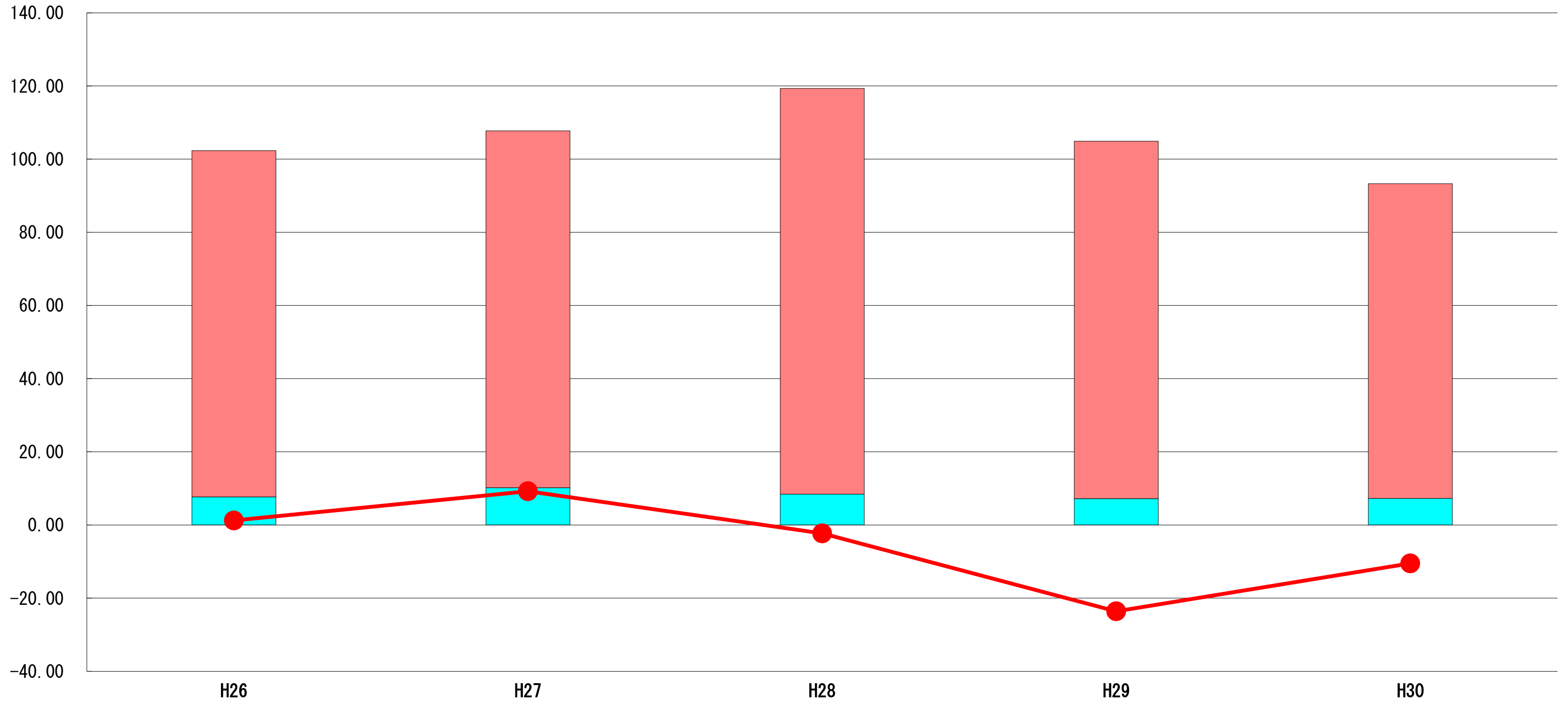
公債費については、償還期間が短い合併特例事業債及び過疎対策事業債の残高が全体の44.8%を占め、単年度における償還額が高額になり実質公債費比率を高める要因となっている。元利償還額は年々減少傾向にあったが、H26許可からH28許可過疎対策事業債等の元利償還開始に伴い増加に転じている。類似団体内順位は依然として高い傾向にあるため、今後も新たな起債を抑制することにより、適正な水準を目指す。

(7) 実質収支比率等に係る経年分析 (市町村)




平成30年度

福岡県東峰村

標準財政規模比 (%)



標準財政規模比 (%)

区分	年度	H26	H27	H28	H29	H30
 財政調整基金残高		94.62	97.60	110.94	97.71	85.98
 実質収支額		7.72	10.18	8.42	7.22	7.31
 実質単年度収支		1.24	9.23	▲ 2.30	▲ 23.58	▲ 10.51

分析欄

H29九州北部豪雨及びH30西日本豪雨災害に係る災害復旧等の臨時財政需要があったため、実質単年度収支は昨年度比+13.07ポイントの赤字決算となっているが、財政調整基金の取崩しにより、実質収支は黒字決算となっている。

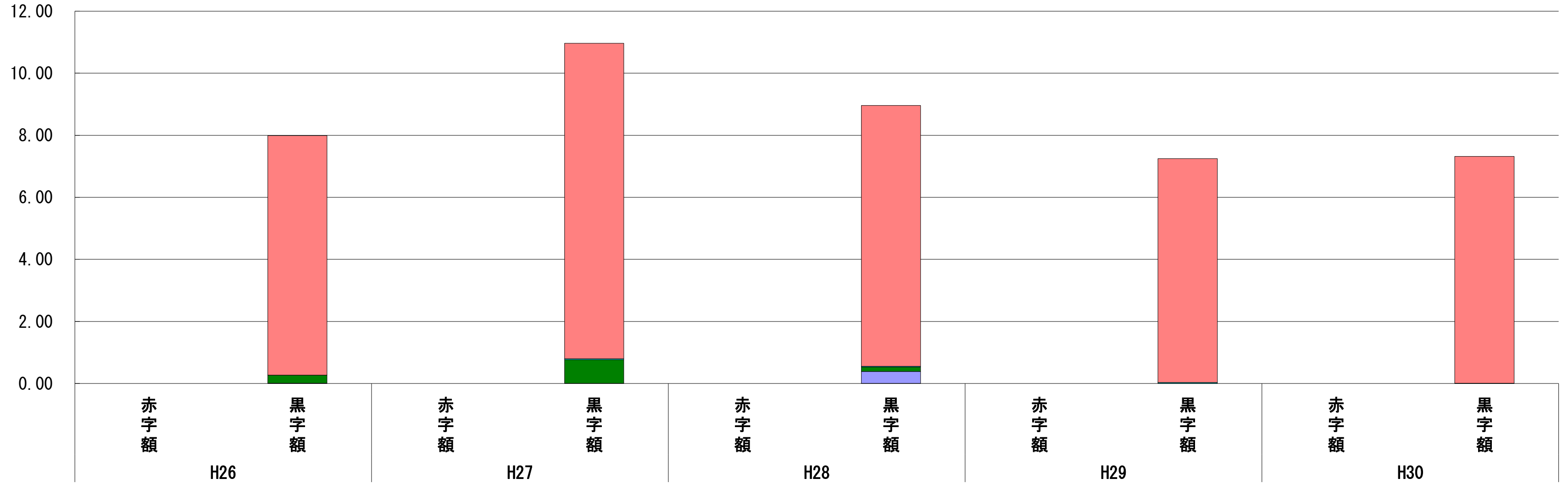
今後、人口減少等による普通交付税交付額の減少が見込まれると思われ、その状況に備えた財政運営が求められる。

(8) 連結実質赤字比率に係る赤字・黒字の構成分析（市町村）

平成30年度

福岡県東峰村

標準財政規模比（%）



標準財政規模比（%）

会計	年度	H26	H27	H28	H29	H30
一般会計		7.72	10.17	8.41	7.22	7.31
後期高齢者医療		0.00	0.03	0.02	0.03	0.01
簡易水道事業		0.26	0.77	0.14	0.00	0.00
国民健康保険事業		0.01	0.00	0.39	0.00	0.00
その他会計（赤字）		-	-	-	-	-
その他会計（黒字）		-	-	-	-	-

分析欄

実質連結赤字比率については、毎年度黒字決算となっているが、これは一般会計からの繰出金の増加によるものである。
 今後の状況次第では繰出金がさらに増加することも予想され、必要に応じた受益者負担の在り方を検討することが求められる。
 また、一般会計においても実質収支比率と同様に今後は普通交付税を含めた一般財源の確保は厳しくなると見込まれるため、今後の状況を注視していく必要がある。

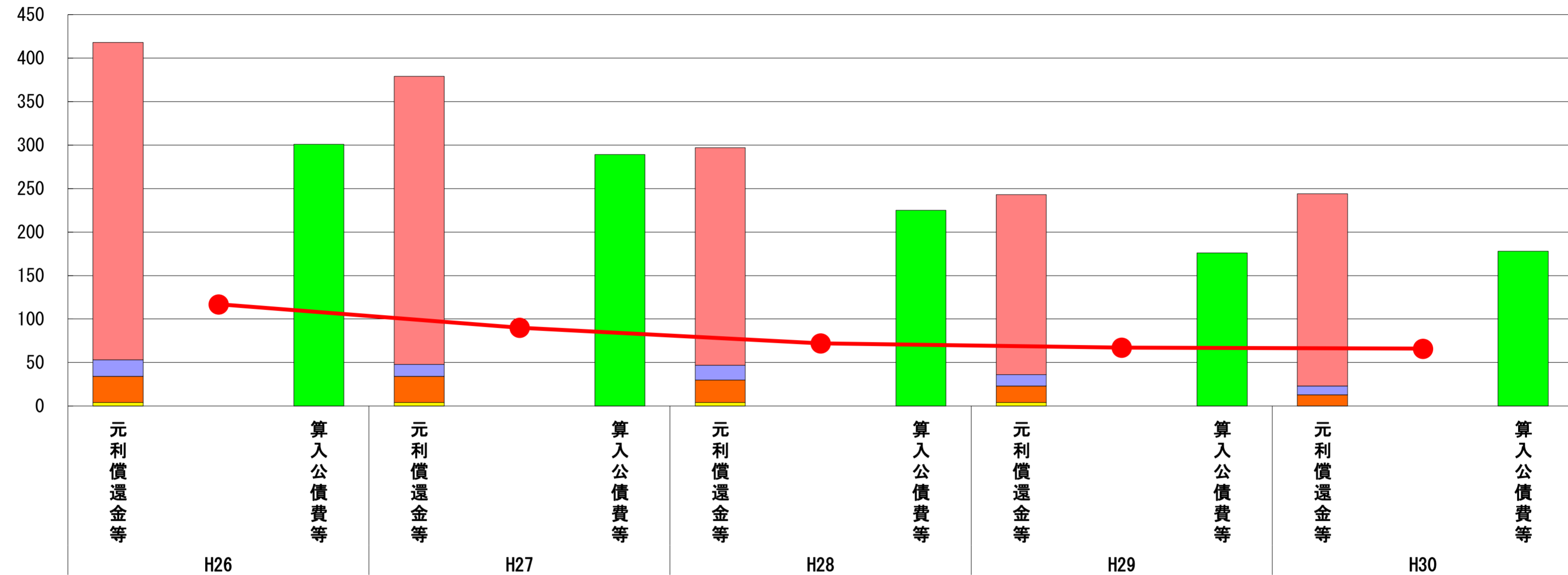
※平成31年度中に市町村合併した団体で、合併前の団体ごとの決算に基づく連結実質赤字比率を算出していない団体については、グラフを表記しない。

(9) 実質公債費比率（分子）の構造（市町村）

平成30年度

福岡県東峰村

(百万円)



(百万円)

分子の構造		年度	H26	H27	H28	H29	H30
元利償還金等 (A)	元利償還金		365	331	250	207	221
	減債基金積立不足算定額※2		-	-	-	-	-
	満期一括償還地方債に係る年度割相当額		-	-	-	-	-
	公営企業債の元利償還金に対する繰入金		19	14	17	13	10
	組合等が起こした地方債の元利償還金に対する負担金等		30	30	26	19	13
	債務負担行為に基づく支出額		4	4	4	4	-
	一時借入金の利子		-	-	-	-	-
算入公債費等 (B)	算入公債費等		301	289	225	176	178
(A) - (B)	実質公債費比率の分子		117	90	72	67	66

分析欄

実質公債費比率については、平成18年度決算時の21.9に対し、平成30年度決算では5.5と大幅に改善したかに見えるが、全国平均6.1より少し上回ったに過ぎない。
 今後、H29・H30災害復旧事業債に係る元利償還額の増加が懸念されるが、今後も継続して起債の抑制等を行い、後世に負担を残さない財政運営に努めていく。

※1 平成31年度中に市町村合併した団体で、合併前の団体ごとの決算に基づく実質公債費比率を算出していない団体については、グラフを表記しない。

(参考)

		年度	H25末	H26末	H27末	H28末	H29末
※2 減債基金積立状況等	減債基金残高 (注)		-	-	-	-	-
	減債基金積立相当額		-	-	-	-	-

分析欄

該当なし

(注) 減債基金残高のうち、実質公債費比率の算定に用いる満期一括償還地方債の償還の財源として積み立てた額に係るもののみを記入。

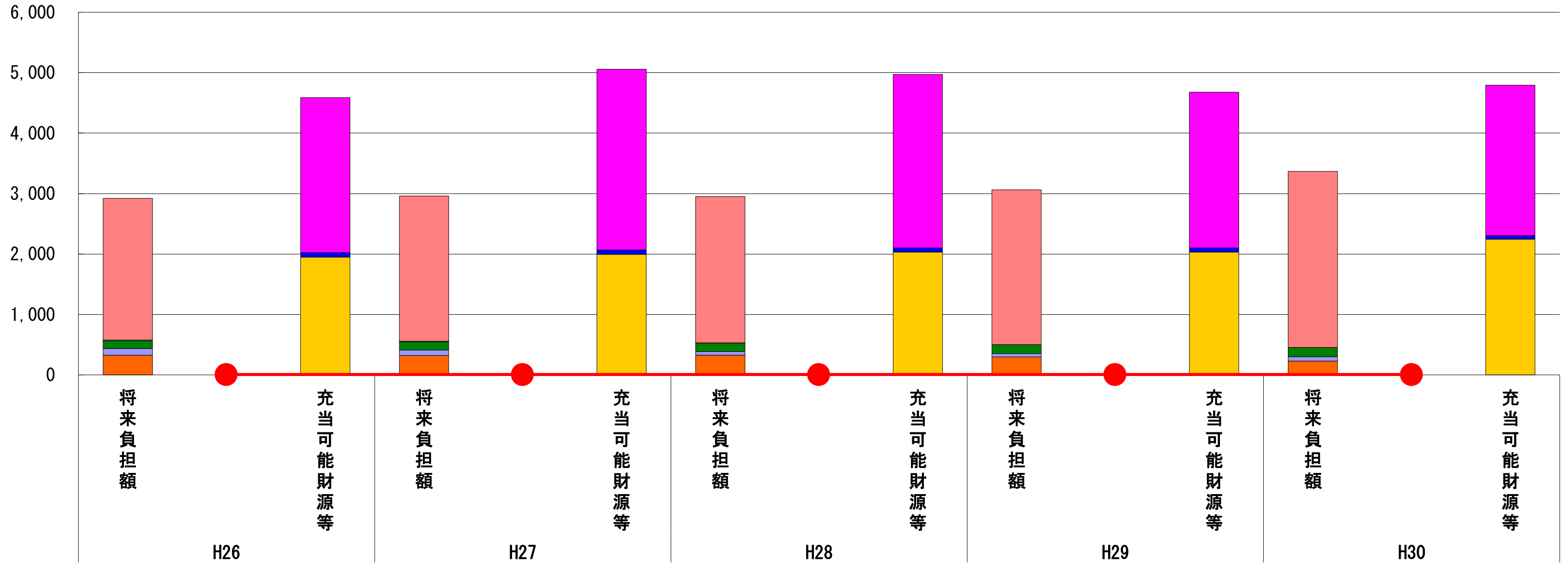
減債基金積立金の年度を超えた一般会計又は特別会計への貸付額は控除して記入。

(10) 将来負担比率（分子）の構造（市町村）

平成30年度

福岡県東峰村

(百万円)



(百万円)

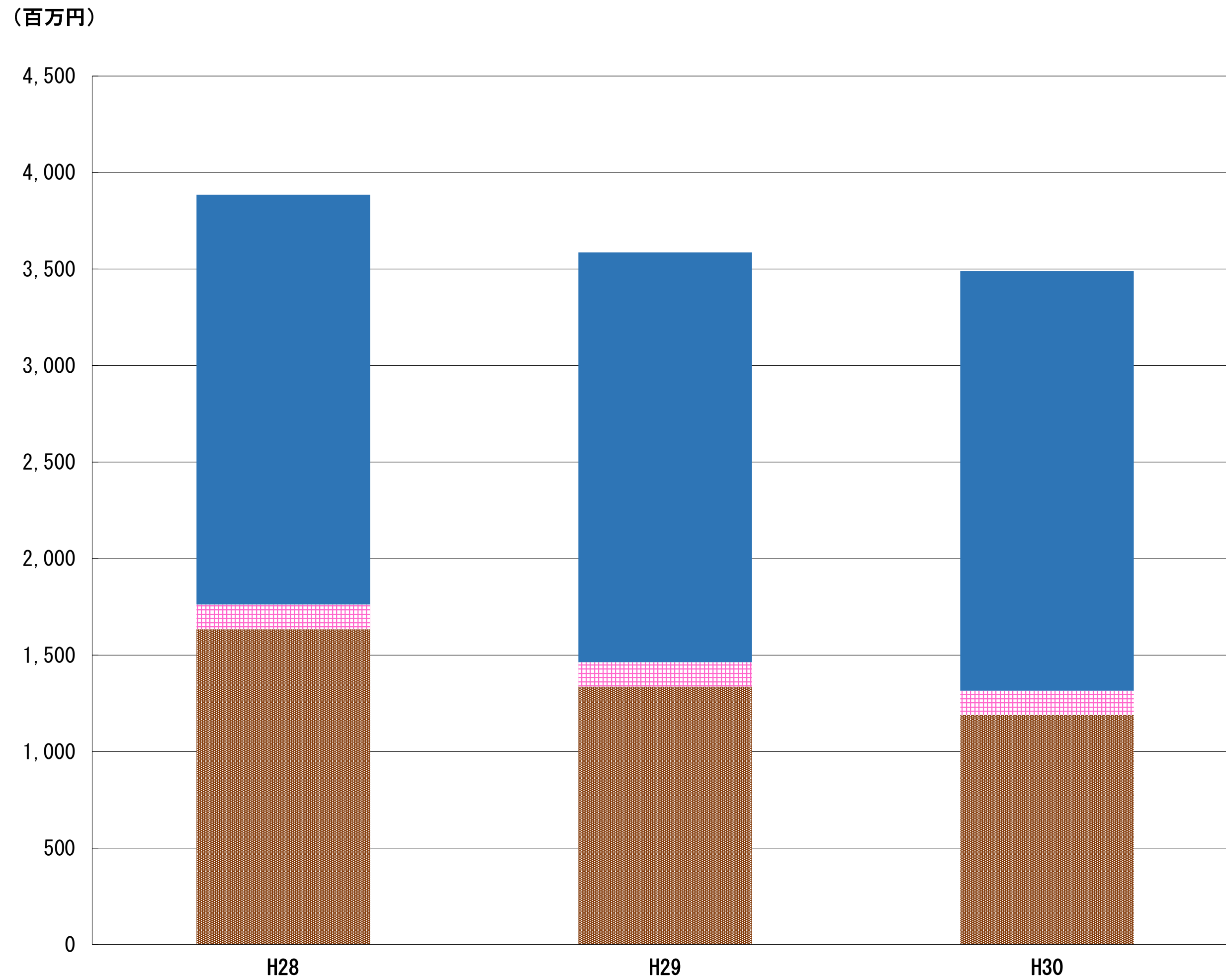
分子の構造		年度	H26	H27	H28	H29	H30
将来負担額(A)	一般会計等に係る地方債の現在高		2,343	2,401	2,420	2,562	2,912
	債務負担行為に基づく支出予定額		13	9	4	-	-
	公営企業債等繰入見込額		128	137	138	149	155
	組合等負担等見込額		110	88	60	52	71
	退職手当負担見込額		326	323	328	298	229
	設立法人等の負債額等負担見込額		-	-	-	-	-
	うち、健全化法施行規則附則第三条に係る負担見込額		-	-	-	-	-
	連結実質赤字額		-	-	-	-	-
充当可能財源等(B)	充当可能基金		2,563	2,988	2,873	2,579	2,487
	充当可能特定歳入		76	71	69	66	59
	基準財政需要額算入見込額		1,948	1,996	2,031	2,034	2,247
(A) - (B)	将来負担比率の分子		▲ 1,667	▲ 2,097	▲ 2,024	▲ 1,617	▲ 1,425

分析欄

年々減少の傾向にあった将来負担比率は、H29・H30災害復旧事業債の新規発行、定住促進住宅中原団地整備に係る旧合併特例事業債の新規発行等により地方債の現在高が増加したが、充当可能基金の減、基準財政需要額算入見込額の増など、相対的に平成23年度決算時以降マイナス比率の状態が継続している。今後も後世への負担を軽減するために起債の抑制や基金の適正運用を行う事により引き続いてのマイナス比率の確保に努める。

※平成31年度中に市町村合併した団体で、合併前の団体ごとの決算に基づく将来負担比率を算出していない団体については、グラフを表記しない。

(11) 基金残高（東日本大震災分を含む）に係る経年分析（市町村）



区分	年度	H28	H29	H30
財政調整基金		1,634	1,336	1,189
減債基金		127	127	127
その他特定目的基金		2,124	2,123	2,175
合併振興基金		1,012	1,008	1,004
小石原川ダム水源地域振興整備事業基金		41	115	268
水源かん養基金		216	207	197
農業振興基金（旧 中山間地域活性化基金）		151	147	144
生き・活き基金		91	91	90
基金残高合計		3,885	3,587	3,491

平成30年度

福岡県東峰村

基金全体

（増減理由）

H29九州北部豪雨及びH30西日本豪雨に係る災害復旧事業のため財政調整基金から150百万円を取り崩したこと、小石原川ダム水源地域振興整備事業に要する経費に充てるため小石原川ダム水源地域振興整備事業基金に170百万円を積み立て、17百万円を取り崩したこと、水源保全を図る事業に要する経費に充てるため水源かん養基金に13百万円を積み立て、23百万円を取り崩したこと等により、基金全体としては96百万円の減となった。

（今後の方針）

財政調整基金については、今後見込まれる普通交付税の更なる減少、少子高齢化に伴う社会保障関係経費の増大、大規模災害への備えを踏まえて計画的な運用に努める。減債基金については、経済情勢の著しい変動等に備えて計画的な運用に努める。その他特定目的基金については、其々の目的に応じた計画的な運用に努める。

財政調整基金

（増減理由）

H29九州北部豪雨及びH30西日本豪雨に係る災害復旧事業のため財政調整基金から150百万円取崩しを行い、災害復旧・復興に向けて財政運営を行った。基金運用益分については、2百万円を積み立てた。

（今後の方針）

普通交付税について、平成18年度(1,173百万円)以降では平成22年度(1,463百万円)をピークに減少傾向にあり、合併算定替が終了し一本算定となっていることから普通交付税の減少が更に見込まれる。また、少子高齢化に伴う社会保障関係経費の増大や大規模災害への備えを踏まえて計画的な運用に努める。

減債基金

（増減理由）

基金運用益分については、0.2百万円を積み立てた。

（今後の方針）

経済情勢の著しい変動等により財源が著しく不足する場合や償還期限の満了に伴う地方債の償還額が他年度と比べて著しく多額となる年度において当該年度の地方債を償還する場合、償還期限を繰り上げて地方債を償還する場合、地方債のうち地方税の減収補てんまたは財源対策のため発行されたものを償還する場合に限り、その財源に充てることのできるため、それに備えて計画的な運用に努める。

その他特定目的基金

（基金の用途）

- ・合併振興基金：合併に伴う地域の振興及び住民の一体感醸成のため。
- ・小石原川ダム水源地域振興整備事業基金：筑後川水系小石原川ダムに係る東峰村の水源地域の振興整備事業に要する経費。
- ・水源かん養基金：水源地域における水源かん養機能の向上及び水源保全を図る事業に要する経費。
- ・農業振興基金(旧 中山間地域活性化基金)：東峰村の農業及び農村の振興を図るため。
- ・生き・活き基金：各分野の指導者・後継者の育成と、豊かで活力ある地域づくりに貢献する創造性豊かな人材を育成するため。

（増減理由）

- ・小石原川ダム水源地域振興整備事業基金：小石原川ダムに係る水源地域整備事業に要する経費に充てるため170百万円を積み立て、17百万円を取り崩した。
- ・水源かん養基金：水源保全を図る事業に要する経費に充てるため13百万円を積み立て、23百万円を取り崩した。
- ・施設改修基金：公共施設の施設改修のため41百万円を取り崩した。
- ・災害対策基金：災害復旧対策、復興対策を円滑に推進するため34百万円を取り崩した。
- ・すこやか子育て基金：子育て支援の事業に要する経費に充てるため2百万円を積み立て、2百万円を取り崩した。
- ・スクールバス買替資金充当基金：スクールバス買替に要する資金に充当するため百万円を積み立てた。
- ・その他目的基金に基金運用益分3百万円を積み立て、36百万円を取り崩した。

（今後の方針）

- ・合併振興基金については、当面は果実分を新村計画による事業に充当する。その他目的基金については、其々計画的な運用に努める。

(12) 市町村公会計指標分析／財政指標組合せ分析表

平成30年度

福岡県東峰村

人口	2,128人	(H31.1.1現在)	実質赤字比率	-	%
うち日本人	2,120人	(H31.1.1現在)	連結実質赤字比率	-	%
面積	51.97	km ²	実質公債費比率	5.5	%
歳入総額	5,122,138	千円	将来負担比率	-	%
歳出総額	4,804,628	千円	市町村類型	H26 I-1 H27 I-1 H28 I-1	
実質収支	101,089	千円	(年度毎)	H29 I-1 H30 I-1	
標準財政規模	1,382,643	千円			
地方債現在高	2,912,078	千円			

- 当該団体値
- ◆ 類似団体内平均値
- ┌ 類似団体内の最大値及び最小値

- ※ 市町村類型とは、人口および産業構造等により全国の市町村を35のグループに分類したものである。当該団体と同じグループに属する団体を類似団体と言う。
- ※ 人口については、各調査対象年度の1月1日現在の住民基本台帳に登録されている人口に基づいている。
- ※ 類似団体内順位、全国平均、各都道府県平均は、平成30年度決算の状況である。また類似団体が存在しない場合、類似団体内順位を表示しない。
- ※ 平成31年度中に市町村合併した団体で、合併前の団体毎の決算に基づく健全化判断比率等を算出していない団体については、債務償還比率、実質公債費率、将来負担比率のグラフを表記しない。

有形固定資産減価償却率

有形固定資産減価償却率 [-]

類似団体内順位 -/-

全国平均 60.3

福岡県平均 61.0

固定資産台帳整備中・未整備

有形固定資産減価償却率の分析欄

(参考)債務償還比率

債務償還比率 [198.3%]

類似団体内順位 19/52

全国平均 635.6

福岡県平均 883.3

債務償還比率の分析欄

将来負担額3,367百万円（前年度比+306百万円）に対し、充当可能財源2,546百万円（前年度比▲98百万円）となったため、債務償還比率は198.3%となった。これは、H29・H30災害復旧事業債の新規発行、定住促進住宅中原団地整備に係る旧合併特例事業債の新規発行等により地方債の現在高が増加したためである。
今後も事業精査による新たな起債の抑制と基金の計画的な運用に努める。

将来負担比率及び有形固定資産減価償却率の組合せによる分析

将来負担比率と有形固定資産減価償却率の推移

固定資産台帳整備中・未整備

分析欄

		H26	H27	H28	H29	H30
当該団体値	将来負担比率	/	/	/	/	/
	有形固定資産減価償却率	/	/	/	/	/
類似団体内平均値	将来負担比率	/	/	/	/	/
	有形固定資産減価償却率	/	/	/	/	/

将来負担比率及び実質公債費比率の組合せによる分析

将来負担比率と実質公債費比率の推移

分析欄

年々減少の傾向にあった将来負担比率は、H29・H30災害復旧事業債の新規発行、定住促進住宅中原団地整備に係る旧合併特例事業債の新規発行等により地方債の現在高が増加したが、充当可能基金の減、基準財政需要額算入見込額の増など、相対的に平成23年度決算時以降マイナス比率の状態が継続している。
実質公債費比率については、償還期間が短い合併特例事業債及び過疎対策事業債の残高が全体残高の44.8%を占めており毎年の償還額が比較的多額になっていることが比率を押し上げる要因だと考える。

(参考)

		H26	H27	H28	H29	H30
当該団体値	将来負担比率	-	-	-	-	-
	実質公債費比率	10.4	8.7	7.4	6.1	5.5
類似団体内平均値	将来負担比率	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	実質公債費比率	6.9	7.2	6.0	5.6	5.3

(13)-1市町村施設類型別ストック情報分析表①

平成30年度

福岡県東峰村

人口	2,128	人(H31.1.1現在)	実質赤字比率	-	%
うち日本人	2,120	人(H31.1.1現在)	連結実質赤字比率	-	%
面積	51.97	km ²	実質公債費比率	5.5	%
歳入総額	5,122,138	千円	将来負担比率	-	%
歳出総額	4,804,628	千円	市町村類型	H26 I-1 H27 I-1 H28 I-1	
実質収支	101,089	千円	(年度毎)	H29 I-1 H30 I-1	
標準財政規模	1,382,643	千円			
地方債現在高	2,912,078	千円			

※ 市町村類型とは、人口および産業構造等により全国の市町村を35のグループに分類したものである。当該団体と同じグループに属する団体を類似団体と言う。
 ※ 人口については、各調査対象年度の1月1日現在の住民基本台帳に登録されている人口に基づいている。
 ※ 類似団体内順位、全国平均、各都道府県平均は、平成30年度決算の状況である。また類似団体が存在しない場合、類似団体内順位を表示しない。

固定資産台帳整備中・未整備

施設情報の分析欄

(13)-2市町村施設類型別ストック情報分析表②

平成30年度

福岡県東峰村

人口	2,128	人(H31.1.1現在)	実質赤字比率	-	%
うち日本人	2,120	人(H31.1.1現在)	連結実質赤字比率	-	%
面積	51.97	km ²	実質公債費比率	5.5	%
歳入総額	5,122,138	千円	将来負担比率	-	%
歳出総額	4,804,628	千円	市町村類型	H26 I-1 H27 I-1 H28 I-1	
実質収支	101,089	千円	(年度毎)	H29 I-1 H30 I-1	
標準財政規模	1,382,643	千円			
地方債現在高	2,912,078	千円			

※ 市町村類型とは、人口および産業構造等により全国の市町村を35のグループに分類したものである。当該団体と同じグループに属する団体を類似団体と言う。

※ 人口については、各調査対象年度の1月1日現在の住民基本台帳に登録されている人口に基づいている。

※ 類似団体内順位、全国平均、各都道府県平均は、平成30年度決算の状況である。また類似団体が存在しない場合、類似団体内順位を表示しない。

固定資産台帳整備中・未整備

施設情報の分析欄